



バラ色の素粒子 そりゅうし (分身主義のお話)

文章 : ayu & 徳永真亜基分身

表紙絵 & 挿絵 : 坂泉かや分身

始まりは、たった三行のメールだった。

>初めましてこんにちは ayu と申します。
>ボクも詩人になりたいのですが、どうやってなるものなんですか？
>すみません、それだけです……。では失礼します。

僕のホームページをちょっとだけ覗いた人が、からかいで送ってきたメールかなと思った。それで、無視しようとも思ったのだが、受け取ったメールは必ず返信をするという、僕の密やかなポリシーがこの瞬間に崩されるのは悔しいので、返事を書くことにした。

送り主の正体は、14歳の少年だった。
それは、まるであの頃の僕だった。

僕 ayu

初めまして ayu さん。

>ボクも詩人になりたいのですが、どうやってなるものなんですか？
>すみません、それだけです……。では失礼します。

これを読んで、正直いって何と答えようか迷いました。(?!); 揶揄かもしれないので、無視しようかとも思いました。(笑)でも、僕は「いただいたメールには必ず返事を出す」というポリシーを持っているので、やっぱり返事を書くことにします。

- 1、ayu さんが、こんなメールをくださった背景、あるいは動機を教えてください。
- 2、僕の書いた作品『詩人になる方法(彼はいかにして詩人になったか)』のことを言っているのだと思いますが、それをどこでお知りになったかも教えてください。僕のホームページですか、それとも(株)ベクターさん(*1)ですか？

それらを知らないと、的はずれな答えになりそうですから。
ちなみに、詩人は、大工や教師といった「職業」ではありません。

(*1) (株)ベクター
ソフトのダウンロードサイト。
<http://www.vector.co.jp/>

ayu 僕

こんにちは！ ayu です！ お返事ありがとうございます～v v すごくうれしいです！ いきなりメールでしたので、かなり失礼だったと思います。本当にごめんなさい！
メールした動機は、詩人になりたいけどどうすればいいのかわからなくて、たまたま通りかかったあなた様のページを見て「よし！この人にメールしてみよう！」となったのです；;(爆) くだらない理由でごめんなさい……。！
あと『詩人になる方法』を知ったのは、あなた様の HP を見てですv v
では失礼しますv v

僕 ayu

僕は、若い頃、ずっと詩人になりたいと思っていました。と言うより、詩だけを書いて生きていきたかったんです。大人が、そして友達が、どんなに僕の考えが甘いと批判しようと、純粹に詩だけを書いて、純粹に純粹に生きていきたかったんです。でも、世の中の誰一人として、詩だけを書いて生きている人を見たことがありません。ある人は、大工の片手間に詩を書い

ていたり、ある人は、教師の片手間に詩を書いていたり、また、ある人にとっては、大工も教師も詩を書き続けるための手段と割り切っているのかもしれませんが。あの谷川俊太郎さんでさえ、詩だけで食っているとはとても言えません。評論を書いたり翻訳をしたり音楽の作詞をしたり、いろいろとやっています。寺山修司さんなんかは劇団まで主宰していましたよね。

ウェルギリウス(*2)の生きていた頃は、お金持ちのスポンサーがついて、広大な土地と立派なお屋敷とお手伝いさんを世話してもらえて、詩だけを書いて生活できる詩人もいたようですが 昔々のお話です。でも、お抱え詩人っていうのも、イヤですけどね。(笑)

だから、現代を生きる ayu さんが、詩だけを書いて生活をしようと考えているなら、まず、無理だと言えます。現代の詩人は、小説かエッセイか気の利いた評論も書けなければいけません。コピーライターという選択肢もありそうですが。でも、詩人になることは可能です。

『詩人になる方法(彼はいかにして詩人になったか)』は、そのへんの心の葛藤を描いたつもりです。そして、最後に気づくのです。詩とは、文学を超えたところに存在するものであると。そして詩人とはこのことであると。この()は読んでからの楽しみです。

(*2) ウェルギリウス
(前 70 - 前 19) 古代ローマの代表的詩人。アウグストゥス帝、文人のパトロンであるマエケナスの知遇を得、ローマの国民的叙事詩「アエネイス」を著した。ほかに「牧歌(詩選)」「農耕詩」など。

ところで、ayu さんは、おいくつの方なんでしょうか? 『詩人になる方法』は、ベクターさんでは、18禁になってしまっています。僕は、そんなつもりで書いていませんが。

ayu 僕

こんにちは! ayu です v v

な・・・なんかすごいです・・・。なんか詩人ってすごいような気がするの気のせいですか!? (笑)・・・ってかあなた様もすごいです! なんか尊敬しちゃいます!! やっぱ教師をやりながら詩を書くのはあんま好ましくくないですよ(違ったらごめんなさい)。でもやっぱ詩だけで生きていこうとしてる人の方がとてもいいです。それでこそ詩人です。そう思いませんか?

やっぱみなさん詩だけではなく他の仕事もやってるのですね・・・。本当に何か一つの仕事について、それで暮らしていくというのはボクはかなり希望しています。実はボク中学二年なんですが、精神的な病気で学校をやめてしまう可能性があるのです。うちはとても貧乏ですが、本当は絵で暮らしていきたかったのです。絵にはとても自信があります。でもどうやってプロになればいいかわからないから、考えてるうちにいっぱいいっぱいやりたいことが増えてきたのです。考えることがボクはとても豊富なので詩人やポエム書きにもなりたかったのです。でも本当にどうしていいかわからないのです・・・。声優やイラストレーターやマンガ家にもすっごくになりたいのです。

『』のところすごく気になります! ちくしょう!! なんとか読んでみせる!! (炎) ってか18禁・・・!! すげえ・・・!!

あ、ちなみにボクは14歳の です v v 名前は、高橋歩(あゆむ)と言います。この歳にして相当な悩みを抱えてるものです;;

最近、低年齢化が進んでることにとってもショックを受けています。ボクたちの年代の人や、年下の方がなんかすごいことやってるとか聞く度に胸が痛いです;;

そういえばあなた様は本とか出しているのですね? そうだったらかなりすごいです・・・!!

そんな人とボクはお話できるなんて感激ですよー!!

僕 ayu

こんにちは。君が14歳で中学2年生の男の子だということがわかりました。それでは今日から親しみを込めて ayu くんと呼ばせていただきます。

なりたいたいのものがたくさんある悩み多き ayu くん。たくさんの職業の選択肢に囲まれて現代を生きる僕たちには、「可能性」という不自由があります。職業の選択肢が増えたということは一見自由が増えたように思えますが、その逆に、むしろ「心」が不自由になってしまっているんです。僕たちは悲しい時代を生きているんです。

大昔、男は狩りをするだけだった時代、共同で大きな獲物をしとめたり、それを持ち帰り多くの家族で分け合ったりしていた時代は、人間の心はもっともっと自由だったんです。そして、もっともっとみんなの心は寄り添っていました。だって、

誰一人として、将来のことで悩むことなんてなかったんですから。

男は狩りの技術を習得することだけに専念すればよかったんだし、ミュージシャンになろうか、詩人になろうか、通訳になろうか、声優になろうか、モデル（これは無理？）になろうかと、悩む必要はこれっぽっちもなく、アイデンティティ（他の人と違う自分らしさという感覚）の確立を急がなければ生きていけないような強迫観念に悩む必要もありません。だって、その時代は狩人以外の選択肢がなかったからです。

だからテレビでもてはやされる格好いい歌手や俳優や、金持ちの実業家や、あるいはエリートと言われる人たちを目指して報われない苦しい努力を続けることも、彼らに嫉妬することもなかったわけです。せいぜい、狩りの名人に嫉妬するくらいですみます。

現代では、やりたいことが特になく、将来は平凡なサラリーマンでもいい、平凡な主婦でもいいとあきらめがつくような人の方が（そういう人がいたらの話ですが）あるいは親の仕事を継がなければならないと決められている人の方が、むしろ生きやすいのかもしれませんがね。ayuくんや僕のような、自分の可能性を夢見て、やりたいことがたくさんある人間の方が、生き辛い人生を生きることになりそうです。

一人で全部をできないから、このように考えたらどうでしょう。自分にできないことを自分に代わって、自分の分身がやってくださっている　こんな考え方をするのが分身主義です。

年下が何か（良い意味で）すごいことをやったって、君の分身が君の代わりにやってくれていると知れば、何だか感謝したくもなります。年下が何か（悪い意味で）すごいことをやったって、君の分身がやってしまったと知れば、彼を責めるよりも救いの手を差し伸べてあげることだと気づきます。

世界中のみんなは君の分身、君は世界中のみんなの分身！　みんなが仲良く一つになる合言葉、それが分身主義です。（注：君の分身は人間だけではなく、夜空に輝く星も、この地球も木も草も石ころも、机も本も鉛筆も　宇宙のぜーんぶです）

それと、もう一つ。

分身主義は人類の可能性の上に立つものではなく、人類は自然界の前においては無力だったという「あきらめ」を知ったところから立ち上がったものです。「あきらめ」という言葉、ここでは決して否定的に受け取らないでくださいね。実は、人類は己の限界を知り、「あきらめ」を知ったその時こそ心が解放され、僕たちは本当の自由と幸福と平和を手にすることができるんです。このことは、ほとんどの大人がまだ気がついていません。

考えることがたくさんあって、やりたいことも次から次へと考えついでしまう悩み多きayuくんと、僕はとても似ているような気がします。僕も君と同じ年頃の時は、将来のことで本当に悩みました。実際、悩まなくなったのは40歳になってからかもしれません。（笑）

その意味は、いろいろ試してみても一つずつ可能性を消去していき、最終的にやりたいものとできることが一つに統一されたのが、僕は40歳くらいだったという意味です。つまり、選択肢が限られてきたせいで、むしろ心が自由になれたんです。ちなみに、僕は現在47歳です。将来の職業への期待もなくなり、分身主義にも出会えた僕の心は、今、少しずつ解放され、ひたすら「自由」に向かっているのを実感しています。

せっかくですから、僕の悩み多き人生の一端をお話します。

僕が一番なりたいものは「詩人」でした。それも、あんまりせかせかと詩を書かない詩人。（笑）

詩人のような豊かな感性で生活することが一番の目的で、その結果として詩が自然に生まれてくるのが理想と考えていた、という言い方が一番正しいかも。（爆）

でも、残念なことに、詩人というのは職業の名称ではありません。詩を書いて生きていくためには、何らかの職業につかなければいけません。そのためには、詩を書くための刺激になり役に立つ職業を選択した方がいいしに決まっています。

詩を作るためには、その背景に強烈な思想のようなものがなければいけないと思い、大学では哲学を専攻しようなどと思って、高校三年の終わりまで受験勉強をしていました。でも、勉強が好きでもなく探究心もない同年代の人間たちが、みんな大学へ行こうとしている風潮に腹が立ち、彼らや社会に対する抵抗の意味で大学受験を拒否しました。

そして、考え抜いた末、12歳の時から夢中になっていたギターを本格的に勉強しようと思い、両親に頼み込んでギターの学校に行かせてもらいました。ギターと詩は自分の中でとても相性が良かったからです。でも、ギターではなかなか食べていけないクラシック音楽界の現状を知り、一年半でやめました。

その後、ちょっと仕事をやったりしたのですが心は少しも満たされず、音楽か美術の教師になろうと考えました。高校の時のクラブでデッサンは夢中でやったし、結構絵には自信があったので美術の教師だったら途中で嫌気がささずに続けられそうな気がしたからです。教師になるためには大学に入らなければ免許が取得できない、という理由で再び受験勉強を始めました。

大学を卒業して教員試験を受けたら、静岡の先生に採用が決まりました。でも、面接で緊張して失敗した僕はすっかり落ちたと思い込んでいたし、その頃、先生になったら結婚しようとしていた女性がいて、早く一定の収入が欲しかったこともあり、採用通知が来るまでの何ヵ月間も待たずに、普通の会社に就職してしまっていました。

彼女は画家志望で、東京から出たくないと言うし、ちょうどその頃、校内暴力が一番盛んな時期で、教師になった先輩の話などを聞いて教育への意欲が失せてもいたので、先生は辞退してしまいました。

就職した会社は自分の時間がたっぷり取れたので、本当は詩がたくさん書けるはずでしたが、詩を書くための手段と割り切って仕事をすると、何かと不満が出てくるものです。気持ちの切り替えの下手な僕は、家に帰ってから詩を書くような心境にはなかなかならず、結局、毎晩遅くまで（時には朝まで）酒を飲んでしまう習慣が身についてしまいました。やりたいこととやっていることの落差にイライラすることもありました。

結局は、僕の場合は、詩人のような豊かな感性を保った生活をするのが一番の目的で、その結果として詩が自然に生まれてくるのが理想と考えていたから、要するに、今思えば、せかせか仕事をしないで生きていける足場を固めたかったんですね。そのため、30歳になる少し前には会社も辞めて、一攫千金を狙って賭けの要素の強いビジネスに手を出してしまいました。大金を得て、マンションでも建て、その家賃収入で生活ができれば、何にも煩わされずに詩だけと向かい合って生きられるなどと考えたんです。体を壊すギリギリまで頑張ったけど、そんな不純な動機で始めたビジネスは失敗に終わりました。

その後はいろいろな職業を転々としてきました。

僕がこんな転落？の人生を歩むことになったのは、どんな職業についても、今の自分の職業は本当の自分の職業ではない、という気持ちが根底にあったからです。いつまでも自分の夢を捨て切れず、その可能性を信じる気持ちに振り回され、それでいつまでも心が不自由だったわけです。

でも、回り道をした人生の中で、誰にもつかめなかったものをつかみ取った気がしています。それが、この前もちょっとお話しした分身主義というものです。

僕がもし回り道をせず、決められたレールの上を不満もなく歩ける人間だったら、この場所には辿り着けなかったと思っています。ただ、詩を書く足場を固めることに一生懸命で、気がつけば肝腎の詩はほとんど書いていなかったというのが実情です。（爆）

今、何気なく「もし だったら」と書いてしまいましたが、そのように想像することは勝手ですが、本当は、この世には、「もし だったら」ということは絶対にあり得ません。僕たちがこうして出会ったことだって、本当は偶然なんかじゃないんです。もちろん、「神様が引き合わせてくれた」などという非科学的な意味ではなく、とても科学的な意味で言っているんです。これは分身主義を支えている骨格となる考え方から導き出されています。

ところで、ayu くと似ている僕が、人生の先輩として、君に適切なアドバイスをして差し上げるとしたら、40歳になれば迷わなくなるよ、ということです。僕にとって、やりたいものとできることが最終的に統一されたものは、それは、それは「詩人」ではなかったようでした。少しもお金になることではなかったという点では、確かに詩人と同じようなものでしたけどね。（笑）

でも、40歳は、ayu くんにとってはまだまだ先の話ですから、何の慰みにもなりませんね。それで、回り道の末、僕が辿り着いた分身主義を君に贈りたいと思います。人間は自然界の前では無力だった、という「あきらめ」を知ったところから立ち上がった本当の心の自由を、君に教えてあげたいんです。君を動かす自然界の風を、全身で感じて欲しいんです。自然界の風を感じれるようになった君の身体は、君の脳の中にある善悪を判定するリトマス試験紙を経由して、君にみんなのためになる良い行いだけをさせます。

僕がこの悟りに出会ったのは、『アラスカの風に乗せて』という作品を元にして、いろいろな人と語り合っているうちに『人類の育てた果実』という作品が生まれ、それが発展し、『分身主義宣言！』が作られた頃です。どれも、僕のホームページからダウンロードできますが、『アラスカの風に乗せて』だけが有料です。この三つは、時間があったら是非、読んでみてください。きっと、今のayu くん役に立ってくれると信じています。

>そういえばあなた様は本とか出しているのですよね？

>そうだったらかなりすごいです・・・！！

これは違います。僕は本は一冊も出したことはありません。一生懸命働きかけてはみたけど出版してもらえなかった、というのが本当の話ですが、むしろそのことが功を奏しました。本を作るにはたくさんの人の労力が必要です。それにたくさんの資金、たくさんの紙とインクが必要です。本ができたらできたと、それを売るための宣伝をしなければならず、そこでまたたくさんの人の力と、大掛かりな物流システムが必要です。それでも返本や絶版は免れません。

でもインターネットのおかげでその全てが省略でき、しかもプロバイダーにお払いするわずかなお金さえあれば、たった一人の力で、永遠に、しかも世界中に瞬時に自分の書いたものを公開できるんです。これは全く夢のようなことなんです。

著作権って知っていますか？

著作権者が自己の著作物の複製・発行・翻訳・興行・上映・放送などに関し、独占的に利益を享受できる権利です。良く言えば、僕が書いたものは僕の利益として守られています。でも本当は、全ての創作物は、一人の人の独創や発明ではなく、みんなの総力の結集で生まれているんです。このような考え方をするのも分身主義です。

分身主義が行き渡れば、著作権を含む知的所有権の考え方はいずれ変化させられていくでしょう。その時には、作者の生活を保障するための違う方法が考え出されることになるはずですが、全ての創作物は、人類の共有財産なんです。僕たちはみんなでその利益を享受し守っていくことになります。

ところでちょっと気になることが書いてありました。

>実はボク中学二年なんですが、精神的な病気で学校をやめてしまう可能性があるのです。

これはどういう意味でしょう。ちなみに、分身主義では、**精神(=脳)**は、**個人の持ち物でもないし**、**みんなの総力の結集**どうにかなるものでもない、と考えます。

ayu 僕

こんにちはv v ayu ですv v

なんかボクの分身がいっぱいいるなんて考えると照れくさいです ;(何!?)

はい、確かにあなた様とボクはとっても似てます。やりたいこととやっていることの落差に本当に腹立ちますよね。時にはかなりむかついて泣いたこともあります。詩作だけに専念したいけど、他の仕事もやらなければいけない。でもその仕事は失敗に終わる。本当に泣きたい気持ちになりますよね。でもこの場所にたどり着けたのは良いことです。足場を固めるのが必死だったせいで、詩がほとんど書いてないってこともやっぱあるものですね。(笑)

とりあえず色々試してみます!! 統一してみせます!!

でもボクって短気なので、早くしたいという気持ちでいっぱいになっちゃうかもです ;(汗)

その作品たちを読ませてください!! ダウンロードをするのですね? わかりました!

あ、でもお願いがあるのですが……。HP のアドレス忘れちゃったのでもう一回教えてくださいませ ;(爆)

>>実はボク中学二年なんですが、精神的な病気で学校をやめてしまう可能性があるのです。

この意味を説明します。

実はボクは中1の秋ごろからおかしくなったのです。学校では正常にしているように見えますが、家に帰ると親に暴力・暴言を吐いたり、綺麗好きのボクだったのに部屋が散らかり放題。そしてなぜか学校に行きたくなくなってしまったのです。今は暴言は吐きますが、暴力は何とか抑えています。ですがやはり学校は行きたくない気持ちでいっぱいなのです。早くこの病気が治るといいです。病院に通院して薬をもらってるのですが、やっぱり早く治るものではないんですね。この病気のせいで、詩も今じゃ書く気にもなりません。

では!

僕 ayu

ayu くん、こんにちは。

僕たちは短気なものも似ています。早くしたいと焦るんですよ。

飲みに行って一万円使うのは平気なのに、たった1000円の本を買うのに一週間も悩んで、いざ買うと決めると、もう、すぐにでも手に入らないと気がすまない。その時駆け込んだ本屋に置いてなかったりすると、**機嫌**を悪くしてしまう。

それとか、スーパーで自分が並んだところのレジが遅いと、隣のレジに並びなおしてしまうんだけど、並びなおしたレジの方が遅くなって悔しい思いをしたり。(笑) 本当に、短気なものも困りものです。

>実はボクは中1の秋ごろからおかしくなったのです。学校では正常にしているように見えますが、家に帰ると親に暴力・暴言を

>吐いたり、綺麗好きのボクだったのに部屋が散らかり放題。

もしかしたら、これも似ているのかもしれませんが。僕は中1の頃、ホームルームだか何かの時間に、担任の先生が、「みんなちょっと聞いてくれ。昨日、驚いたことがあった。徳永のお母さんに、最近、暴力をふるうという相談を受けた。あの徳永が? って、先生はびっくりした」僕の目を見てみんなの前で、そんなことを言い出すんです。その先生は、僕のこととても買ってくれていて、みんなの前でいつも誉めてくれていたから、よけい僕の行動が意外だったんでしょう。

僕は、学校ではいろいろな委員をやらされて、おとなしい優等生的に見えていたようだけど、その頃、家ではちょっと荒れ

ていました。でも、そんなことを母親が心配しているとは、これっぽっちも知りませんでした。
僕は、その先生をとて尊敬していたので、家で機嫌が悪くなると、先生の言葉を思い出して、先生の期待を裏切らないようにと努力をすることで、少しずつ治っていったような気がします。

ayu くん、通院して薬を飲まされているということですが、そんなことは賛成できません。それは、自分を「病気」と決め付けてしまうことになります。周囲も君のことを病人という目で見ることになってしまいます。すると、病気という言葉に頼ってしまい、そこから抜け出すことが困難になってしまいます。

はっきり断言することはできませんが、僕のケースから見て、君のは病気なんかじゃなく、思春期に誰もが経験する一過性^{いっかせい}のいらだちではないでしょうか。身体や環境の変化に対応しきれない無意識のいらだちではないかと思います。そう思わなきゃ、負けてしまいますよ。抜け出せなくなりますよ。

その頃の僕は、時々、心の中が、散らかり放題で、めちゃくちゃで、何もかもどうでもいいやなんて思ったりしたこともありました。でも、そんなの病気だなんて思わなかったし、今も、こうして平気です。必ず、時間が解決してくれて、そこから抜け出せます。

だから、薬にだけは頼ってはいけないよ！

>あ、でもお願いがあるのですが・・・。

>HP のアドレス忘れちゃったのでもう一回教えてくださいませ

って、おい！ しっかりしてくれよ！（笑）

これがHP 『アラスカの風に乗せて』のアドレスです。

<http://www.epm-hassin.net/>

作品は、どこにあるか自分で探し出してください。それと、『アラスカの風に乗せて』は有料で、入金が確認された時点でこちらからパスワードを送付するシステムになっているのですが、みごとにダウンロードできたら連絡をください。可愛い弟分（分身くん）にだけは、無料でパスワードをお知らせします。

ついでに、もう一つのHP もお教えします。『僕は健康だよ。ただちょっと ^{いみじん}』という意味深なものです。

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/markey19/>

ayu 僕

こんにちは！ ayu ですv v

>飲みに行っって一万円使うのは平気なのに、たった1000円の本を買うのに一週間も悩んで、いざ、買うと決めると、もう、すぐ

>にでも手に入らないと気がすまない。その時駆け込んだ本屋に置いてなかったりすると、機嫌を悪くしてしまう。

ありますあります！

お酒は飲みませんが、東京で平気で一万円使うのに、たった1200円の本を買うの迷ったことがあります～！ で、本屋に置いてないと怒り爆発。（笑）スーパーでもそういうことあります！

え！？ 徳永さんも中1のころそうだったのですか！？ すごい似てる・・・。でもボクはお母さんに暴力を振るっても、お母さんは学校の先生には言わなかったのです。悔しかったですよ・・・、ボクはこういう一面を持つてのに気づいてもらえなかったのですから・・・。でもこの前先生にある一面を見られました。先生が玄関にいるのを知らず、「おかーさん！ おかーさん！」とか階段を下りながら大声で呼んでいるところを・・・。ボクは学校では静かなので先生は意外だと言っていました。（爆笑）

徳永さんはおとなしい優等生^{うとうせい}だったのですよね？ ボクは小学生の頃まで頭も結構良くて、絵も上手くて、字も上手くて、スポーツ万能で、みんなに羨ましがられました。しかも小6の頃が一番明るくて、元気で、楽しく暮らしていました。（しかも自分もあきれほどドジでおっちょこちよい）しかし中1になって勉強をしなくなり、イジメとかもあったのですごく静かな奴になってしまい、異常な事態に運動能力も低下しました。

それに、静かだけではなく暗い人間になりました。友達も多く減りましたよ。しかも大親友のSまで・・・。そのせいで家では荒れまくり。学校では静か。徳永さんと同じ感じですね。母親心配しまくりで泣いていましたよ。

そしてボクは尊敬する先生がいらないのです。でも徳永さんのHPを見て尊敬しました。もしかしたら治るかも・・・って思うのです；；

・・・確かにボクは病気だと決め付けちゃってますね。何か失敗したことがあったら「病気なんだから仕方ないでしょ」とかいつも言ってしまう。何をやるに関しても「病気だから・・・」とか心の中で思ってしまう。すごいですね、徳永さん。そういうことまでわかっていたとは・・・。やっぱ薬とかに頼ってしまうのはよくないですね；；

「一過性のいらだち」ですか？

でも、ボク、他にもちょっとみんなとは違う(?)ところが出てきてるんです・・・。例えば人と話をするとき、人に顔を向けるのが苦痛だったり、家族内にいると意味不明なことを言ったりしちゃうのです。あと少しでも気にそれた言い方をされると、落ち込んだり、淋しくなったり、自分はもうダメな人間だと思ったり・・・。時には何にもやる気がおきなくなつて心が憂鬱になり、自信を失って、絶望的な気持ちになったりも・・・。孤独さを感じたりもします。

これは一体なんなんですか・・・？

これは普通の人でもなってることなのですか・・・？

もう心の中は、徳永さんの言ったとおりめちゃくちゃ状態になったりもします。それでも徳永さんは病気だなんて思わなかったなんて、ボクにはとても想像が付きません。時間が解決してくれるとは親からも言われたりしますが、いつになったら治るのがわからないのでとても恐怖です。でも徳永さんの言ったとおり、薬には頼りません！

HPのアドレスを教えてくださいありがとうございます～！ 本当に自分でもしっかりして欲しいものです；；(苦笑)

ダウンロードのやつもう見つけましたよ。(笑) あれでいいと思うので、ダウンロードしてみますねv v

もう一つのHPも少し回ってきました！ 教えてくださいありがとうございます！ なんだか徳永さんは神様のように人間の心理を知っているようすごいです・・・。少し読んだだけでも関心しちゃいます・・・。また読んでみますねv v

僕 ayu

ayuくん、こんにちは。君の分身、徳永です。

またまた共通点が見つかりましたよ、ayuくん！ 僕も小学生の頃、字がうまいってみんなに言われていました。絵は小学校と中学校の写生会で特選をもらいました。スポーツ万能とはいかなかったけど、身体を動かすのは今でも大好きで、インラインスケートは週に2回はやっています。

ただしみんなで作るスポーツ(野球やバスケットなど)は、不公平感があるのが嫌いです。(汗) サッカーは好きですが、やっぱり不公平感が嫌です。(大汗) でもなぜかバレーボールは大好きで、体育の授業もバレーがある時だけはウキウキしました。たぶん、誰にも平等に回ってくるローテーションや、あのコートの狭さが、みんなで一つのことをやるという気分を盛り立ててくれるからでしょう。共通点が多い僕たちだから、君の悩みも、僕の辿ってきた過去を知れば、何らかの解決のヒントになるかもしれませんね。お役に立ちたいと思います。

>でも、ボク他にもちょっとみんなとは違う(?)ところが出てきてるんです・・・。

>例えば人と話をするとき、人に顔を向けるのが苦痛だったり、家族内にいると意味不明なことを言ったりしちゃうのです。あと少

>しても気にそれた言い方をされると、落ち込んだり、淋しくなったり、自分はもうダメな人間だと思ったり・・・。時には何に

>もやる気がおきなくなつて心が憂鬱になり、自信を失って、絶望的な気持ちになったりも・・・。孤独さを感じたりもします。

>これは一体なんなんですか・・・？

>これは普通の人でもなってることなのですか・・・？

その通りです。

僕は、この前、君は病気ではないと言いましたが、それは決して「そんなの病気じゃない、気にすんなよ」なんて突き放してるんじゃないんですよ。君が悩んでいる限り、それは気のせいではなく、しつこい実在している「何か」なんですから。

でも、それを「病気」と呼ぶのは間違いだと言っているんです。「病気」と呼んで片付けてしまつては先に進めないよ、って言っているんです。こんなこと、今まで誰も言っていないから、何を言っているか理解してもらえないかもしれないけど、それを「病気」と呼ばずになんと呼ぶかと言うと、それは「てんおんしょうじょう適応症状」です。

今日は、次の二つの言葉をしっかりと覚えてください。

- 1、脳というのは、個人の持ち物でも、自分の考えでどうにかなるものでもなく、それを取り巻く環境に「動かされている」存在でしかない。

2、この宇宙に、適応しない状態で存在しているものは何一つない。

この二つです。

1について簡単に説明します。

脳は、刺激（情報）を与えてくれたり、その刺激に対する反応を受け止めてくれる、脳を取り巻く「環境」がなければ、なんにもしない能なし野郎だということです。植物が植物として育つためには、太陽の光や水が不可欠のように、脳は刺激という情報が入力され、またそれに対する反応を受け止めてくれる場所が用意されて、初めて機能するモノなんです。

2についてです。

例えば、月へ向けたロケットが途中で爆発してしまったら、それは適応しなかったのではなくて、爆発がそのロケットの自然界に適応した状態だったということです。君の脳が病気のような症状を見せているけど、それは、それが君の脳の適応の仕方なんです！

病気は不適応の状態だと決め付けて、一生懸命治そうとしてきたのが今までの僕たちだけ、そうではないんです。病気は、その人の身体が自然界に適応した症状だったんです。今、僕が何かの病気で死んでしまったとしても、それは僕の身体が自然界に適応できなかったからじゃなくて、それが僕の身体が自然界に適応した状態なんです。

今まで病気と考えていたのは、人間を中心としていたからで、自然界を中心にと考えると病気ではなく適応症状ということになるんです。君が治る（いい生き方ができる）ためには、これからはこの自然界を中心にした考え方が必要になってきます。

ところで、僕たちの脳には記憶という性質があって、この、記憶というものが様々な現象を引き起こします。君の質問の中に出てくる（他の人と違った？）現象や行動も、「君の脳の記憶」が作り出した現象や行動の一つ一つです。僕たちの脳は、「記憶」を素材にして、いろいろなつじつま合わせをしてしまう癖があります。例えば、怪我をすれば痛いと感じるのは他でもなく境界線を持った「自分」の身体なので、脳は、そういう記憶（体験）を集めて、「自分というものが、この境界線の内側に確かに存在する」とつじつま合わせをします。

また、君にいろいろな適応症状をさせて困らせるのも、それは脳が過去の記憶（心の傷）をやわらげるためのつじつま合わせしているんです。例えば、多重人格というのは、自分が受けた苦痛を、これは自分ではなくBさんやCさんやDさんだとして、苦痛をやわらげるためにやっている脳のつじつま合わせです。

君の過去に受けた心の傷（記憶）は、このパソコンのように簡単には消去することはできません。でも、記憶の上書きは可能です。僕は、君の記憶に新しい考え方を上書きをして欲しいと思うんです。短気な僕たちだけ、ゆっくりとやっていきましょう。僕たちに時間はまだたっぷりあります。僕の方は、大分残り少なくなってきたけどね。（笑）

僕がかつて、ダンゴムシが嫌いでした。便所虫とも呼ばれる虫だし、汚らしい感じがしたからです。でも、最近、『かがくのとも』という子供向けの本で、ダンゴムシの習性を知り、それはちっとも汚いものではなく、危害も加えないとても可愛い生き物だったんだって知ったんです。記憶の上書きは、ダンゴムシを好きにさせてくれました。

例えば、君が激しく憎んでいる人がいるとします。でも、記憶の上書きをすれば、その人を好きになることだってできるんです。

長くなったので、今日はここまでにします。ところで、いつでも、『アラスカの風に乗せて』を開くためのパスワードをお送りしますから、その時期になったら連絡をくださいね。

さいごに、

僕は君の分身なので、今日から僕のことを「徳永分身」と呼んでくださいね。

ayu 僕

こんにちは、ayu ですv v

適応症状・・・ですか？ す・・・すごいです・・・。さすが徳永さんです・・・。

なんかすごすぎてボク頭が混乱してきました・・・！（爆）

この宇宙に適応していないものはないんですね・・・。ロケットが爆発したのも適応・・・、そういう考え方をする人とは初めて出会いました。そして記憶・・・。そうなんですよ・・・。すべては記憶なんです・・・！ 記憶を上書きすれば嫌だなんてことなくなるはずですよ。

過去の記憶（心の傷）を上書きすれば、ボクは大丈夫になるはずですよ。でも新しい考え方ってそう簡単にはいかないと思

ます。どういう考え方をしてどのような気持ちでいけば上書きできるのでしょうか・・・？

ええ！？『徳永分身』ですか！？

な・・・なんかその呼び方恥ずかしいです～；；(笑)

僕 ayu

昨夜は、恐い恐い幻想を持ってしまう精神異常者になってしまった夢を見て、ひどくうなされてしまいました。精神異常者の脳というのは、あの夢の中のように、自分ではどうにもコントロールできない脳で、それが誰にもわかってもらえない彼らだけの苦しみなんだなあ、ということを経験できました。でも、本当は正常と言われている僕たちの脳ですら、自分でコントロールしているわけではないんですがね。それに、今の僕は夢から覚めているとは言え、脳のやっていることはと言えば、コンビニのように24時間営業でひたすら夢を見ることだったんです。

この話は置いて、早速ですが、今日は君に、三つの質問をします。

- 1、マジカルアイって知ってますか？
- 2、霊とか、前世とか、UFOとか、占いとか、そういったものの中で何か信じているものがありますか？
- 3、家族構成を教えてください。

マジカルアイというのは、ある絵を目の焦点をずらしたりしながらじっと見ていると、その絵の中からそれまでまったく見えていなかった別の絵が浮かんできたり、そのものが立体的になって見えてくるものです。他にも、3Dマジックアイとか、ミラクル3Dアイとか、マジカル3Dとか、ファンタジー3Dとか呼ばれていることもあります。みんな同じものです。

僕が初めてそれと出会ったのは、5年以上も前の新聞でした。その時、「この模様の中に、ある動物が隠れています。さあ、見えますか？」というようなものでした。その模様の中に隠されている動物が見えた人の、驚きの体験談のようなもの書かれていました。

僕は、頭がクラクラするくらい、じっと見続けたんですが、ついに何一つ見えてきませんでした。目が悪い人には難しいとか、子どもの方が有利とか、何か書かれていたような気もします。それで、その時は確か、悔しいけど目が悪くしかもしい年をした大人の僕には無理なんだなと諦めたんだと思います。それ以来、その手のものを試すことはやめていました。

ところがここ数年、視力回復トレーニングで寄り目の練習などをしていたせいか、先日、本屋で何気なく「マジカルアイ」の本を手にとってしばらく見ていると、今まで何も見えなかった僕に不思議なことが起こったんです！

その絵の図柄は、太い糸で粗く編んだセーターを部分的に拡大したような意味のないものでしたが、そこになんと可愛らしい天使が見えてきたんです。この驚きは体験したものでなければわかりません！

僕は早速その本を購入し、家に帰って他の絵でも試してみました。

何の変哲もないただの平面の図柄なのに、平行法(目の焦点を図柄よりも手前にする)あるいは交差法(目の焦点を図柄よりも奥にする)などで焦点を変化させて見ると、文字やら動物やら模様やらが、すごいものでは10センチくらい立体的に浮き出てきて、まるで裏から光を当てたようにキラキラと輝き出すんです。その瞬間を、一々歓声を上げて味わっている僕を見て、家族が寄って来ました。でも、誰もそれを見れないので悔しがっていました。そういう時の人間って、ちょっと怒り出すことを発見しました。(笑)

何で、こんな話をしたかと言うと、ayuくん、今僕は君に、焦点を変えることで見えてくる世界を見せてあげたいからです。

それは、僕がこのマジカルアイで体験した感動と同じような、ぶっ飛んだ！感動です。僕たちに今見えている現実を、ちょっと普段見慣れているただの平面の図柄だとします。でも、ちょっと焦点を変える訓練をするだけで、そこに隠されていた真実が、まるで裏から光を当てたようにキラキラと輝いて見えてくる瞬間があるんです。ちょっとした訓練が必要ですが、そのためには、約束して欲しいことがあります。

「科学が証明していないものに対しては、信じるという言葉は使わない！」ということです。

世の中には不思議なことがたくさんあります。UFOを見たという人、心霊体験をしたという人、霊視や予言ができるという人。いろいろなことを信じている人がいます。神様がいて信じている人、前世を信じている人、あの世というものがあると信じている人、植物が人間の言葉を理解すると信じている人、精霊がいて信じている人、占いを信じている人。それらは、本当に存在することかもしれません。もし本当に存在するのなら、いずれ科学がその存在証明をすることでしょう。

まだ科学が解明できるまでに至っていないだけかもしれませんが、科学が解明できるまでに至っていないものは、「信じる！」とは絶対に言わないでください。真偽の判定を保留してください。これだけを、君に約束してもらいたいんです。もちろん、「信じない！」などと言う必要もありません。真偽の判定を保留するんです。前世占いを楽しんだりするのは構わないのですが、あくまでも遊び心を持って行なうだけに留めて欲しいんです。何故かと言うと、非科学的なことに惑わされている限りは、いつまでたっても僕の見えている現実を見てもらうことができないんです。人間の脳はどちらかと言うと、圧倒的な力を持つそういった非科学的なものを信じてしまう傾向にあります。それらのものを信じていて、そこにピントが固定されてしまっている人間の目には、僕の見ている感動的な世界が決して見えないからです。

僕はこれから科学が解明していることだけを、君に話していきます。例えば、科学は、僕たちが誰一人として目にしたことのない「電気」というものの存在を証明していて、世界中どこへいっても、電気が供給されているところであれば、たとえ夜であっても明るい蛍光灯の下で本を読むことができます。

どんな宗教の人でも、どんな民族でも、どんな思想を持っている人でも、人差し指でポンとスイッチを入れさえすれば、電気炊飯器で必ずおいしいご飯が炊けるんです。ヒンズー教の人がスイッチを入れれば中からパンが飛び出してきたり、菜食主義の人がスイッチを入れればホカホカの焼き芋が出てくるなんてことは、万に一つも起こり得ません。必ず同じ一つの結論に至ります。

これからは間違いなく、科学がますます大威張りでその力を見せ付けてくる時代になります。でも、僕たちはそこから逃げたり、悪いものに蓋をするかのように目をそらす必要はありませんよ。

僕たちは、科学が証明していることだけを信じるだけで、ぶっ飛びような感動を体験できるんです！ その意味は、科学だけが僕たち人類の心を一つにしてくれる可能性を秘めている、ということと関係があります。

そのことを信じて、しっかりと僕に着いてきてください。

ayu 僕

今日は、ayu です。質問にお答えします。

1、マジカルアイは知りませんが、何かやった事あります。

徳永さんに送ってもらったやつでやってみただけ、何も見えてきませんでした。可愛い天使だなんて素敵です。今の現実社会も少し視点を変えたらキラキラ輝くような姿が見れるかもしれませんよね。ボクもそんなところがとても見たいです。

2、霊とか占いは信じていました。

でもよく考えたらまだ科学で解明してないんですよ。やっぱ信じない方がいいのでしょうか？

3、家族構成は、父、母、姉、ボク、妹ですv v (父は本物じゃありません)

ところで、『アラスカの風に乗せて』というやつはお金がかかるのですよね？ 本当はお金がかからないやつがいいのですが・・・。

僕 ayu

うーん、ayuくんは、霊とか占いを信じていたんですか!?

この科学の時代にも、霊の存在を信じている人はたくさんいます。UFOや、輪廻転生による生まれ変わり(=前世)や、神や、幽霊や、天国や地獄などを信じている人もたくさんいます。超能力や霊視などを信じている人や、それで金儲けをする人もいます。

今、君に靈魂の証明をした人の話をしあげます。その人はイギリスの海軍軍人だった、有名なネルソン提督です。

彼は、戦争中に右腕を失ってしまったのですが、その後も、失ったはずの右腕の痛みにずっと苦しめられました。それで彼は次のように結論づけたのです。「失ったはずの右腕を痛いと感じるなら、もし自分の全身を失っても(=死んでも)それを痛いと感じるものが残るに違いない。それこそ靈魂に違いない」とても興味深い考え方でしょう!?

でも僕は人間が死んだ後も、その人の靈魂は存在するとは思いません。でも、存在しない物を証明するってことは、とても

難しいんです。例えばヒマラヤの奥地に雪男がいなかったということを証明するには、ヒマラヤに何億人もの人間を常に配備して、何十年も24時間体制の監視を続けなければなりません。それだけでも、まだ証明したことにはなりません。でも、失った右腕の痛みを感じる理由を、科学では「霊魂」という曖昧な言葉を使わなくても説明することはできます。これを「幻肢痛」と呼んでいます。

右腕は消失しても、脳の中にある体性感覚野の右腕に対応していた部分が残っているからと説明します。実際にその理論を使って、失った腕の痛みで10年も悩まされていた人を、たった二週間で治してしまった人がいます。その人は、「すでに失った手を切除するという、歴史上初めての手術であった」とうまいことを言いました。

ayu くん、大事なことなんでよく聞いてください。

存在しない物を証明することは難しいけれども、その前に、どうして人間は存在するかどうかわからないものを考え出してしまうのでしょうか？ それは、その人の願いや恐怖が生み出すんです。例えば、死ぬことが嫌だったり恐かったりするから、「肉体は滅んでも霊魂は永遠不滅だ」とか「輪廻転生はある」と思い込みたいんです。例えば、自分を苦悩から救って欲しいから、神がいると信じ込みたいんです。あるいは、恐怖から幽霊や宇宙人を見てしまったりするんです。霊魂の存在を信じるということは、たとえ肉体が滅んでも、霊魂は違う肉体に乗り移ることで永遠の命を持つと信じていることです。そのように考えることにはたくさんの利点があります。一度だけでない自分の人生を大切に生きたり、他人のために尽くす心の余裕が生まれてきます。それに何となく、幸せな気分が満たされます。でも、ayu くん！ 現代は、僕たちがそんなふうは無理やり思い込まなくても、科学的なデータや実験結果をきちんと整理すれば、十分、それに匹敵する素晴らしい境地に至れるんです。いずれ、このことをお話します。

ところで、「父は本物じゃありません」って、すごい表現ですね。僕は、とっさに、いつか見たSF映画（スティーブン・スピルバーグ監督の『A・I』）の中の、人間そっくりのロボットをイメージしてしまいました。本物(?)のお父さんは、健在なのですか？ ちなみに、僕の父は、平成7年に他界しました。

君の今回のメールを読んで、もしかしたら僕たちの症状は、思春期に誰もが通過する「一過性のいらだち」なんかじゃなくて、僕たちの特殊な家庭環境がもたらしていたのかもしれないと、この年(47歳)になって初めて思いました。他の思春期の人たち(あるいは思春期を経験した人たち)にも聞いてみたいですね。

僕の父親は、僕が幼い頃はとても優しく、遊び道具を作ってくれたり、料理を作ってくれたり、頭も良く力も強くて大好きでした。でも、僕が小学校に上がるくらいから、毎晩お酒をベロンベロンに飲んで帰ってくるようになり、夫婦仲も悪くなり、そのせいで家族の中に見えない亀裂が入っていったことを思い出しました。元々仕事人間なのか、それとも家庭の不和を仕事に逃げ込んだのかはわからないけど、酔っ払って家に帰ってくると、わけのわからない仕事の話に僕にしたり、威張り散らすだけで、会話というものが成り立たず、家庭はまるで氷の世界にいるように冷え冷えとしていきました。

そう言えば、僕は、小学校の3、4年生くらいまで、担任の男の先生が自分の父親の変装している姿じゃないかと本気で疑ってました。先生が時々僕を見る視線には、「夜の自分の姿は仮の姿で、本当はこうして毎日お前の側(そば)にいて、お前だけを見守っているんだよ」と言っているようでした。だから、その先生のほんのちょっとした癖や言動にも、自分の父親である証拠を突き止めようと一生懸命でした。

そんなことも、みんなが想像することだと思っていたけど、そうでないのが普通なのかもしれないと、君のメールを読んで、この年になって始めて思ったわけです。僕の抱いていた幻想も、心の状態も、みんなみんなその頃の僕の家庭の状態が脳に反映されていたのではないかと、そう気づいたんです。

最近、精神状態の方はいかがですか？ まだ病院に通院して薬をもらっているのですか？

それと、『アラスカの風に乗せて』は有料ですが、ayu くんには特別にそれを開くためのパスワード(呪文)をお送りしますね。

ちょっと長いけど、根気強く、絶対最後まで読んでみてくださいね。

ayu 僕

こんにちわ！ ayu です。

今は暴力などは振るってありません。でも、キレるときは暴言は吐きます。というか、キレることが多すぎです。ちょっとしたことでカッとしたり、頭に血が上ります。部屋はこの間片付けて以来、前よりは綺麗なままです。一応病院はまだ通院しています。学校は今休学してるってことは言いましたよね？ だから毎日家にいます。ストレスはかなりたまっています。それで最近イラついたりしています。

実の父は生きていますかどうか、わからないんです~;; でも死んでいる確率が高いと思います！ 会いたかったのになあ…。徳永さんが言うように、このいらだちの半分は、今の父のせいだとボクは思います。父が1日泊まりに出かけるときは、家に帰ってこないで「良かった~」と思いながらホッとしてキッチンにいます。帰ってくると非常にがっかりします。それ

ほどボクは父が苦手なんです。たまに本当のお父さんに会いたいなどと思います(見たことないけど)、これがまた実父じゃないので余計に仲良くしようとする気持ちもありません。

父さんは昔は優しくかったです。「この家の中で一番怖いのは母さんで、一番優しいのは父さんだ」と思っていたぐらいです。父さんと一緒に暮らすようになったのは、だいたい小1頃です。少し怒るときもあったけど、優しくて、すぐ欲しい物を買ってくれたりするのでボクは父がそのとき大好きでした。逆に母さんは怒ったり、頬をぶったりしてばっかでしたので、恐れから嫌いでした。だから悪いことをするときも「父さんは優しいから、父さんの前では大丈夫だ」と思ってやったら、案の定そうでした。

4年になったら少し父は恐くなりだしました。でもボクは全然気にしませんでした。怖いときは別にして、いつも通り優しい父だったのです。そして5年ごろになるとかなり父は恐くなりました。悪いことをすると外に放り投げたり、叩かれました。ボクはだんだん父が怖いと思い始めました。でも、あんま気にしないでいました。

中学に入ったら、もう酷いありさまです。喧嘩になると、ボクがいつも負けます。殴られて腕をねじられ、床に押し付けて、ボクが謝るまでそうにします。ボクが泣こうがわめこうがお構いなしです。それが悔しくて悔しくて「今度は殴られても我慢してやる」と思い始めました。でもいざ喧嘩になると恐くて家出をするようになったのです。(と言っても母にすぐ見つかりますが)それが毎日でした。



そして現在はそういうことがあまなくなりしました。なぜかという、ボクから父の方に関わらないようにするからです。いつもキッチンに父がいるのでボクは父が寝るのをひたすら待ちます。でも夕食を食べないとなのでキッチンに行きます。でも食べているとき父がこっちを睨んでいるような気がして、我慢できず違うところで食べることがよくあります。そして父が寝るとようやく開放感が出てきてキッチンに行きます。それがボクの毎日です。

変な話、失礼しました；；

ところで、パスワード教えてくださいありがとうございます！！ すごくうれしいです！！ 早速入ってみます！！ ボクは最近、本当に本をたくさん読むおかげで、読むスピードが速くなってしまいました；； 最初の頃なんて一ヶ月にやっとな冊ですよ。(それは遅すぎ)それで徳永分身さん(笑)の書いたものも早く読めると思います！

この前、クリエイター募集というのがあったので、詩を応募してみたのですが、「文章がストレートすぎる」と言われました；；

がーん！ ボク、精神面の詩を書いたのですが確かにストレートすぎました；； どうしよう。(笑)

僕 ayu

辛いお話をさせてしまっておめね。学校は休学していたとは知りませんでした。毎日家にいると、確かにストレスがたまりますよね。

空いている時間、ジムにでも行って身体を鍛え、お父さんに負けない身体を作るのもよさそうです。(笑) 僕も昔ジムに通いましたが、とても爽快になれます。(ソウカイ?)

ayuくん、実は、君の実のお父さんは今ここにいますよ。それは僕だったんです。(って嘘)

でも、僕は親子の関係よりももっと強い関係で君と結ばれています。だって、忘れませんか？ 僕は君の分身です！

君がお父さんと仲良くできないのは、とても悲しいです。でも、お父さんは決して君のことを愛していないんじゃないと思うんです。

愛はいろいろな形に変化します。その現われが君に対する態度なんです。参考にならないかもしれないけど、僕の書いたものを見てください。 <http://www.epm-hassin.net/ai10.htm>

それと、ホームページに「分身主義とは」というページを、たった今追加しました。真っ先に君に報告します。

<http://www.epm-hassin.net/teigi.htm> です。

クリエイター募集というのに自分の詩を出してみたということですが、審査する人には、審査の基準があって、それに合致しているものがない作品ということになってしまうので、相手が何を求めているかを知る能力がある人が、求められるんでしょうね。僕にはもっとも苦手な分野です。(笑)

昨日、下敷したじきのようにペラペラの人間の夢を見ました。横から見ればちゃんとした人間だけど、前から見たら1ミリくらいなのているかいないかわからないんです。(笑) 自分も下敷人間になっていて、違和感なくちゃんと話なんかをしていました。(爆) 内容は忘れてしまいました。

ayu 僕

>相手が何を求めているかを知る能力がある人が、求められるんでしょうね。

それ、ボクもかなり苦手です!! ちくしょう!! 難しいなあ詩は!!

ええ!? 徳永さんがボクのお父さん!? んなわけあるか~!(笑) でも徳永さんはボクと強い関係で結ばれてますもんね。だって分身だもん。(笑)

メルマガ読みました! な・・・なんかすごいです虐待ぎゃくたい・・・。こんな人がいるなんて・・・。なんか、ボクに起きてる嫌なことがバカバカしく思えてきます。(笑) でもこの虐待も親の強い愛情なんでしょうね。ボクも妹がいますが、その妹が変なことをやったときボクは思いっきりぶったたいてしまうことがあります。ボクはこんなことをする自分が非常に悲しいですが、これはけっして妹が憎らしかつたからぶったわけじゃないんです。妹がそんなことをする子になるのが嫌だから無意識にぶってしまったのです。でもその思いはなかなかわかってくれなくて、ただみんなは妹をぶちたいからぶっただけとしか見てくれませんでした。ボクが妹を心配する気持ちをわかってくれないのです・・・。だからメルマガの母親の気持ちはよくわかります。



下敷のようにペラい人間!?(爆笑) 一体どんな人間なんだ!?! ボクは最近人間関係においた嫌な夢を見てうなされています。(笑)

ひどいよ・・・、夢の中までボクをいじめてくるなんて・・・。

僕 ayu

>ちくしょう!! 難しいなあ詩は!!

難しいのは詩ではなくて、相手が何を求めているのかを知ることの方ですよ。詩は、自分の心が癒いやされれば、それが一番いい詩です。本当の意味の詩とは、自分のためのものだからです。だから、公募などを毛嫌しつぽいする詩人もいます。この僕です。

おっと、僕が詩人であればの話ですがね。(爆)

今日はちょっと考えてみて欲しいことがあります。

「子どもは永遠に理想を生きることはできない!?!」

これは僕が寝ているうちに浮かんだ言葉です。でも、これはアメリカから入り込んできた「個人主義」の神話しんわ(=作り話)です。なぜなら、個人主義の理想が財産や名声を得ることで、それを成功と呼ぶなら、大人になることでしか成し得ない成功だからです。そのために子どもは、「将来の理想」を夢見て一生懸命勉強をさせられます。

だけど、最近はずいぶん子どもでも理想を生きることを可能にしました。子どもが才能を發揮おもろうして大儲けしたり、子どものカリスマなども出てきたそうです。でも、本当に彼らは幸せなんでしょうか?

分身主義では、子どもも理想を生きています。自然界には不適合の状態はあり得ないということは、前にお話しましたね。全ての子どもは子どもとしての理想を、今、生きているんです。

今すぐには理解できなくてもいいです。でも、ayuくん、君はこの言葉をよ~く、覚えておいてください。

それと、この前、書き忘れましたが、君と僕の類似点がまた一つありました。僕のきょうだいも、姉と妹と僕です。

今日は君に教えてもらいたいことが二つあります。

Q 1、最近の学校では、素粒子(そりゅうし)という言葉を知っていますか？ 知るとしたら、何年生くらいで知っていますか？
クォークやレプトンという言葉も知っていますか？

分子(ぶんし)を細かくすると原子(げんし)になって、原子を細かくすると、原子核(げんしかく)と電子(でんし)になって、原子核をもっと細かくすると陽子(ようし)や中性子(ちゅうせいし)になって、陽子や中性子をもっと細かくすると、クォークやレプトンに分けられ、現代の科学では、それが物質の最小単位だとされています。

その最小単位を、それ以上分割できない、内部に構造を持たない点状粒子(てんじょうりゅうし)をイメージして「素粒子」と呼んでいます。

(僕の頃は素粒子なんて言葉出てこなかったように記憶しています)

Q 2、ビッグバンというのは、小・中のどこで知りましたか？
どのようなものと記憶していますか？

ayu 僕

うおお！？ 徳永さんの兄弟はそうになっていたのですね！ 姉と妹がいるのですか～！
類似点がまた増えましたね！

A 1、ボクは知ったことないので、素粒子ってどういうものなのかさっぱりわかりません。(汗)

A 2、ビッグバンというのは聞いたことあるようなないような・・・。
でも知ったことはないような気がします。知っても覚えていないだけかも。(大汗)

この言葉を受けて、僕は早速、小・中・高校の現行の教科書では、次の言葉がどのような形で取り上げられているか調べてみた。

「素粒子」、「ビッグバン」、「神経細胞(ニューロン)」、「遺伝子」、「エネルギー保存の法則」、「質量保存の法則」、「物質循環(または食物連鎖)」

これらは、分身主義を理解してもらうためにも、最低限必要な科学的知識だ。

僕の時代の教育と、科学なしでは考えられない今の時代とは、当然、その内容にも格段(かくだん)の違いがあると期待して、小学校でもある程度は知っていたのは買いかぶりだった。小学校では、これらの言葉は皆無(みな)だということには驚いた。

中学校では、「エネルギー保存の法則」、「質量保存の法則」、「物質循環」はあるが、「ビッグバン」、「神経細胞(ニューロン)」、「遺伝子」の記述はなかった。また、「原子」までは出てくるが、「素粒子」の記述はなかった。

そして高校になると、選択科目の「物理」に素粒子、「地学」と「地学」にビッグバン、「生物」にニューロン、「生物」に遺伝子のことがやっとなってくる。

これらは選択なので、文系に進む場合は、結局、小・中・高・大学と16年間通して、一度も学ばないことになるわけである。最近、大学へ行くといっても、就職のためとか就職までの猶予期間で、恋愛や遊びに多くの時間を割割りしている人がほとんどだ。

異性の気を引く方法とか、自分をきれいにさせる方法とか、お金をたくさんもらう方法とかには多大な興味があるが、何かを知りたいという欲望はあんまりなさそうである。面倒なのかもしれない。知識が心の役に立つことが実感できないのかもしれない。

卒業しても興味がなければ、それに関するテレビも見ず、本も読まず、一生、分身主義に必要な最低限の科学的知識を学ばないことにもなりかねないわけだ。

僕は、いずれ「分身主義」を学校で教える必要があると考えています。

分身主義は、現代科学の解明しているものを「世界の平和」という観点から整理し、大局的に眺めただけのもので、要は、科学の知識を心や平和に生かすことなんです。そのためにも、学校ではもっと、正しい科学的知識を教えることの重要さに気づいて、その教育に力を注いで欲しいと感じています。「分身主義」は、宇宙的広い視野を持ち、世界中のみんなが仲良く幸福に生きていくために必要なものです。

「みんな助け合って生きて行くのがあたりまえ」みたいな気持ちや、「おかげさま」とか、「お互いさま」とかいう気持ちで心の心（潜在意識）が染められた人を分身主義者と言います。だけど、そのためには数人の人や数万人の人や、たかだか数億人の人がそのような気持ちになってもだめなんです。世界中の人が一人残らずそのような気持ちを、科学的知識を仲立ちにすることで普遍的に持てるようになった時、始めてこの世界に、たった一人の分身主義者が生まれるんです。

僕 ayu

早速ですが、孫悟空の話知っていますか？

孫悟空が、自分の髪の毛をむしって、それをフウツと吹いて飛ばすと、自分と同じ孫悟空が髪の毛の数の分だけ、即席にできあがります。

それは「分身の術」と言います。一人っきりで敵と戦うよりも、いろいろな方向から敵を取り囲み攻撃できるので、とても有効な技です。

ayuくんも、一つ、マスターしてみたらいかがですか？（笑）

でも、本当は、君はもうこの術をマスターしているんです！

以前、年下が嫌いだと言っていましたよね。年下がすごいことをやっていると聞くと胸が痛い。でも、その人はayuくんの分身なんです。

以前、お父さん（養父の方）が苦手だと書いていましたよね。でも、お父さんはayuくんの分身です。

そのように考えたら、突然、年下やお父さんに愛着を持たませんか？ だって、彼らは、ayuくんの分身なんですから。

この分身主義が、ただ一つ、孫悟空の作り出す分身とは違うところがあります。それは、ayuくんの分身は、孫悟空のように自分で作り出した分身ではないということです。つまり、孫悟空の場合は大元の孫悟空本人がいますが、ayuくんの場合は、君が大元ではなく、ayuくんも彼らの分身でもあるんです。みんなみんな分身同士です。

では一体、元々の形は何かということになるんですが、それがこの前、君に知っているかどうか質問した、「ビッグバン」と「素粒子」に関係があります。

現代科学は、この宇宙は約140億年前のビッグバンに始まり、その時に存在していた素粒子がくっついて、長い年月をかけて僕たちの体ができていることを突き止めています。

その証拠に、僕たちの体は、（残酷のようですが）どんどんどんどん小さく切り刻んでいくと、細胞になり、それもどんどん刻んでいくと分子になり、それも刻んでいくと、原子になり、やがて素粒子が姿を見せます。と言っても、小さくてとても目には見えませんが、科学的な方法で存在を観測することは可能です。（ちなみに現在では高倍率の電子顕微鏡で得られた像を拡大して、原子の規則正しい配列までは見ることができます）

僕たちの身体はみんな、この素粒子が作る一時的な姿です。

だから分身と呼んでいるんです。

いいですか、ayuくん！ 僕たち人類は家族よりも強い絆（きずな）で結ばれていたんです。人類だけではありません！ 星も草木も、動物も虫も、生物も無生物もみんなみんな素粒子でできている分身同士です。

僕たちが世界を平和にするには、愛が大切だとよく言われます。恋人同士の愛、家族の愛、愛国心。でも、それらは、本当は世界を平和にするどころか、世界に争いを作る張本人だったんです。なぜって、恋愛や家族愛や愛国心などが、敵を作り自分たちを守ろうという意識を生んでしまっていたんです。僕たち人類が世界を平和にするためには、ちょっと難しいけど、今までの家族の意識を乗り越えなければならないんです。

ayuくん、君はなんとか今までの家族の意識を乗り越えて、自分を取り巻く全てのものを味方に取り込まなければなりません！

孫悟空なら知っていますよ。でも分身の術を使えるとは知りませんでした。ボクも使いたいです。(笑)

確かに皆ボクの分身だと思うと愛着を持てます。不思議ですね。ボク達の身体は素粒子から作られているのですね。何だか面白い感覚が持てます。

愛は世界に争いを作る張本人・・・。何が凄い・・・。凄すぎて漫画のネタにしたいです・・・。漫画で表したら、皆に理解してもらえらるだろうか・・・。

皆はボクの分身・・・。味方・・・。そのように簡単には思えませんが、近いうちに思うようになるかもしれません。否、なるように頑張りたいです。

僕 ayu

この前、尋ねたことを自分で調べてみました。小学校、中学校、高校では、素粒子やビッグバンや、それに遺伝子や脳の神経細胞(ニューロン)について、どのように教えているかということです。まずわかったことは、小学校では、これらの言葉は皆無だということです。

小学4年生くらいに、月や星のことがほんの少し出てきますが、それだって教師用の指導書には次のような注意書きがされています。

「子どもは抽象的な思考になじみにくいため、地動説(*3)ではなく天動説(*4)で教えること」

なんか、子どもだからって馬鹿にされている感じです。(笑)

中学校では、「エネルギー保存の法則」、「質量保存の法則」、「物質循環」はあるけれども、「素粒子」、「ビッグバン」、「神経細胞(ニューロン)」、「遺伝子」などは習いません。

高校に入ると選択科目になるので、下手をすれば、一生知らずに終わってしまうかもしれないんです。とんでもないことです。

ayu くん、これから話すことをよ～く聞いてください。科学が証明していることだけを話します。まだ証明されていない超能力の話とか霊とか前世とかの話はしません。それらは保留します。

科学のもたらした最も大きな功績は、僕たちに**全ての物事には原因がある**ということを知らしめたことです。

ある現象がどのような原因で起こるのかという疑問が湧き、その原因を突き止めようとしてきたのが科学で、そのおかげで多くの「原因」が解明されてきました。そうすると今度はそれを応用して未来を予測したり、道具や機械を作ることができるようになります。

例えばどのような原因で雨が降るのだろうか？ という疑問が湧き、その原因を突き止めて天気図などを作れるようになると、今度はそれを元にして翌日の雨が降る確率を言い当てることができるようになります。

例えば人間の筋肉を動かしているのは何だろう？ という疑問が湧き、脳から発信される電気信号だということがわかれば、今度はその、脳から発信される微弱な電気信号を拾って動かすことができる義手を作ることができるようになります。

科学がたくさんのことを可能にしてきたのは、やっぱり全ての物事には一定の法則や原因があったからです。もし、りんごが上から下に落ちるばかりでなく、その日の気分で上に落ちたり右に落ちたりしていたら、人間は決して何も作れなかったし未来を予測できないはずですから。

それよりも前に、人間なんて出現するはずありません。

この「**全ての物事には原因がある**」という結論をよ～く考えてみてください。この現象の原因はこれこれで、その原因はこれこれで、その原因はとどこまでもいくと、どうなるのでしょうか？ そう、決してどこかで途切れることはなく、全ての物事の始まりに行き着かずです。科学は全ての物事の始まりを突き止めています。それを**ビッグバン**と言います。

ビッグバンは何から生まれたかということはまだわかっていません。でも、量子論という学問を応用すると、宇宙は無(無というのは、何も無い状態ではなく、さまざまな波長の微小な振動の波に満ちている状態)から生まれたということが言えるようです。

(*3) 地動説(ちどうせつ)
地球が太陽の周りを回転しているとする説。
太陽信仰を背景に古くからあったものの、地球の運動が実感されないなど多くの難点が存在し、それらが数学的・力学的に解消されるにはコペルニクスからニュートンまで約140年を要した。

(*4) 天動説(てんどうせつ)
宇宙の中心に地球が静止し、その周りを他の天体が回転しているとする地球中心説。二世紀にプトレマイオスが数学的理論として体系化して以来、17世紀に至るまで、有限な宇宙観やキリスト教神学と結びついて長く支持された。

宇宙を高倍率の望遠鏡を使って根気よく観測していると、この宇宙はものすごいスピードで膨張していることがわかりました。ということは、一年前はもっと小さく、その一年前はもっと小さかったわけです。そのようにして計算でどんどん遡っていくと、約140億年前は目に見えないほどの小さな点になります。

時間も空間もエネルギーも物質も存在しない無の状態の中に、何らかの原因で、現在の宇宙の小さな種が発生し、それがものすごいスピードで膨張して、その約140億年後の今、僕たちは生きていますと考えられます。

人間の想像力というのはすごいです。この140億年を一瞬にして行ったり来たりできるんですから。

例えば僕と ayu くんが、今こうしてメールのやり取りをしています。その原因は君がメールをくれたからで、その原因は君が僕のホームページを見てくれたからで、それは僕がホームページを作成したからで、その原因は と遡ると、僕たちが生まれる前にまで遡り、ついにはビッグバンに行き着き、今度はビッグバンが僕と ayu くんを出会わせた、と戻ってこれます。そして、結果から見れば、約140億年前にビッグバンが起こってしまった以上、僕たちはその約140億年後、出会うしかなかったんです。

ayu くん、以前僕が「僕たちがこうして出会ったことだって、本当は偶然なんかじゃないんです」と言った言葉、覚えていますか？

それが、このことだったんです。もちろん偶然ではあるけれど、結果から見れば、僕たちは出会うしかない100パーセントの確率で出会っているという意味です。

今、結果から見ると付け加えましたが、全ての物事は偶然の結果で、この先のことは人間には確率的にしか予測できないけど、でも、起こってしまってみれば、瞬き一つ、手の上げ下げ一つにしても、複雑ではあるけれど必ずはっきりとした原因の絡み合いによって起こっていて、それしか起こり得なかったと言えるからです。嘘のようだけど、「全ての物事には原因がある」ということは、結果から見ると「全ての物事はそれしかない確率で起こっていた」と言い換えることができるわけです。これが科学の結論であり、分身主義を支えている骨格となるものです。

よく「もし恐竜が今でも生きていれば」などという話をされる学者先生がいるけど、それを真顔で言うとしたら本当の科学者ではありません。「もし」が成り立ったら科学の「全ての物事には原因がある」が成り立たないことを知っているのが、本当の科学者だからです。

これは運命論とは違うので、間違えないでください。運命論とは、この世の現象は、あらかじめ運命によって決められているという考え方のことで、こちらは非科学的な考え方です。

さて、科学という学問は、物事の原因を突き止めたり、モノをどこまでも小さく切り刻んだりすることが好きです。例えば僕たちの身体をどんどん切り刻むと、細胞になります。それも切り刻むと分子になり、それも切り刻むと原子になり、それも切り刻むと素粒子というものになります。

身体 > 細胞 > 分子 > 原子 > 素粒子

この素粒子というものが、現在では、全ての物質の最小の単位と考えられています。

さて、**ビッグバン**は全ての物事の始まりですから、当然今のような天体も存在しなかったし、生物もいませんでした。その時に存在したのがこの**素粒子**だけだったんです。

素粒子は、この宇宙の中の物質を作っている最小単位のブロックのようなものだと思ってください。このブロックがくっついていくと、突如として今までなかった性質がそこに立ち現われます。例えば、素粒子がいくつかくっついて、**f**という性質の原子ができたとします。他にも、いくつかくっついて**i**という性質の原子ができた、**r**という性質の原子ができた、**e**という性質の原子ができたとします。

今度はそれらが自然界の法則に則って順序よくくっつくと、**fire**という分子ができます。ここに、突如として今までなかった「熱くて、物を燃やす」性質を伴った物質がそこに立ち現われます。**f**にも**i**にも**r**にも**e**にも、どこにも**fire**の性質はありませんでした。

現在、この宇宙には100種類ほどの原子があると言われていますが、それは人間がその性質の違いに名前を付けただけで、元々は素粒子の数が違うだけなんです。ビッグバンの時は素粒子だけだったのが、どのようにして100種類ほどの原子が作られてきたかも解明されています。そうしてこの100種類ほどの原子がくっついたり組み合わせを換えたりして、いろいろな分子ができ、それがまたくっついたり組み合わせを換えたりしているうちに細胞ができ、それがまたくっついたり組み合わせを換えたりしているうちに、僕たちの身体ができたわけです。

素粒子 < 原子 < 分子 < 細胞 < 身体

かなり大急ぎで乱暴な書き方をしましたが、短気な僕たちにはちょうどいいかもしれませんね。(笑)

さて、この原子とか分子を扱う学問を「化学」と言います。全ての物質は化学式で書き表すことができます。この化学を使

って面白い実験ができます。

例えば、木炭や紙や口ウなどを空気中で燃焼させて、その質量を測ると、元の質量より軽くなります。これは燃焼してできた二酸化炭素や水などが、空気中に逃げってしまうからです。その証拠に、木炭や紙や口ウなどを密閉した容器の中で燃焼させれば、その前後で容器の内部の質量は変わりません。これは、物質を作る原子の組み合わせが化学変化によって変わっても、化学変化の前後で全体の原子の数（質量）は変わらないという実験です。この実験によって得られる法則を「質量保存の法則」といいます。

言い換えると、物質は作られることも、無くなることもなく、ただ、あるものが他の形のものに変換されるに過ぎない、と言えます。だから、この質量保存の法則は、物質不滅の法則とも言います。

これはちょうど君の年代、中学二年くらいで学習する化学の実験から得られる法則です。

現在問題となっている、ゴミを焼却する時に発生するダイオキシンですが、あれはゴミの中の、塩素系樹脂を作っていた塩素や、食品などに含まれる炭素や水素が、燃焼させられることで酸素と結びついてできる物質で、原子の組み合わせが変化して作られる物質なのです。原子自体は煮ても焼いても壊れないので、この場合でも焼却の前後で原子の総数は変わりません。

この質量保存の法則は、物質不滅の法則とも言うて書きましたが、物質の大元の大元をたどればどこに行き着くか、わかりますか？

そう、ビッグバンの時に存在していた素粒子に行き着きます。

ついでに、もう一つ中学校で習う化学の法則「エネルギー保存の法則」も説明しておきます。

エネルギーには、光エネルギー、音エネルギー、熱エネルギー、位置エネルギー、運動エネルギー、電気エネルギーなど、いろいろな姿があります。太陽からの光エネルギーは、海水を温めて熱エネルギーに変わり、やがて雲を作り雨を降らせてダムに水をためます。ダムにたまった水の位置エネルギーは、水路を落ちて運動エネルギーとなり、発電機を回して電気エネルギーに変わります。電気エネルギーは送電線などによって家庭に送られ、いろいろな電気器具で光や熱や運動エネルギーに変わり、それを僕たちが利用しています。

例えばテレビはどうでしょうか？ これは電気エネルギーを光や音のエネルギーに変換しています。でも、一部は熱エネルギーに変わっています。このようにエネルギーは常に変換されて伝わりますが、違うエネルギーに変換されているだけで、変換する前後でその総量は変化しないんです。このエネルギーの大元をどこまでもたどれば、どこに行き着くかもわかりましたね。そう、この宇宙を生んだビッグバンの時に動いた力です。

「質量保存の法則」と「エネルギー保存の法則」のことを書きましたが、相対性理論を打ち立てたアインシュタインさんは、この「質量」と「エネルギー」は、別々の物ではなく、質量がエネルギーに、あるいはエネルギーが質量に変換できるということを見つめました。質量の重い物質ほど（たとえばウラン）、大きなエネルギーに変換させることができます。この理論が戦争に利用されてしまい、あの忌まわしい原子爆弾が作られたんです。

でも逆に言えば、原子というものが決して空想上の物ではなかったことを、モノを作ってみせたことで万人に納得させたんです。

さて、ayuくん、僕が以前、人間は死ぬ（自分という意識が失われる）のが怖いから「肉体は滅んでも魂は永遠でありたい」と願う気持ちを持ち、そこから、靈魂の存在や輪廻転生を信じようとしていたと言ったのを覚えていますか？ 僕たちは、確かに永遠不滅だったんです。ただ、靈的な意味で永遠なのではなく、物質（肉体）的な意味で永遠だったんです。それは化学が導いた、先程の質量保存の法則（物質不滅の法則）という法則が証明しています。

そして僕たちは、確かに輪廻転生を繰り返しています。ただ、靈的な意味ではなく、物質（肉体）的な意味においてです。

動物は死んだらどうなるか考えたことがありますか？ 動物を構成していた原子は細菌や菌類などによって分解され、植物や微生物の栄養となり、やがて新たな動物や人間の身体の一部となるわけです。つまり、生物は死んでも、それを構成している原子はリサイクルされるだけで、この世から永遠に消滅してしまうわけではないんです。昔、アフリカで咲いていた植物の原子が、巡り巡って君の身体に入り込んでいるかもしれません。

君が死んだら、君を構成していた原子がどこかの国の船になったり、魚になったり、ロケットになって火星に行ったり、なんてことあるかもしれません。

今までのことを全部ひっくり返して、一言で言い表すと、この宇宙は、ビッグバンの瞬間に存在していた素粒子が、自然界の法則というシナリオに基づいて演じさせられている劇場である、と言えます。

僕たちの身体は、天体や花や草や、他の動物たちがそうであるように素粒子（実際には原子レベルですが）のリサイクル品であったと言えます。

アインシュタインさんは、科学的論理で「質量」と「エネルギー」の垣根を取り去りましたが、それを文学的に要約すれば、質量もエネルギーも素粒子の見せている現象であり、その現われの違いによって、質量（物質）になったり、エネルギーになったりしているだけ、と言えそうです。質量もエネルギーも、素粒子が一時的に見せている姿（＝現象）です。

そして、僕たちのこの肉体も、脳が行なう思考も、それによって起こされる行動も、素粒子が一時的に見せている**仮の姿(=現象)**だったんです。

ayu 僕

こんにちはv vayu です。

学校には相変わらず行ってません； このままではボクの最終学歴は小卒になってしまいそうです。；；

理科の教科書を見てみたら、質量保存の法則もエネルギー保存の法則もちゃんとありました。でも、ボクたちが仮の姿とは書いてありませんでした。 当たり前ですね。

そうですか、ボクたちは仮の姿・・・なんですね。そう考えるとすごいです。この宇宙は、ビッグバンの瞬間に存在していた素粒子が、自然界の法則というシナリオに基づいて演じさせられている劇場・・・なんですね。

徳永さんが以前書いていたように、将来なりたいものがたくさんあると悩みの原因になったりしますよね～； 悲しいものです；

どうせ仮の姿なら、天体や花や草や他の動物に生まれていたら悩まなくてすんだのに。これもビッグバンの仕業です。ちくしょう！ ビッグバンの奴め！

この前インターネットで、ボクが行きたい専門学校を見つけました。声優を目指そうかとだんだん思い始めていたんですが、声優を養成する学校があったんです。でも、入学資格は、高等学校卒業者がそれと同等以上の学力を有する者という条件でした。

そんな～； よーし、ぜったい高校卒業してみせるぞー！

・・・その前に中学でした。

僕 ayu

>よーし、ぜったい高校卒業してみせるぞー！

そう、そう、その意気だ！ 自分がやりたい目標が見つかったなら、もう今の苦悩をほとんど乗り越えたようなもんです！ 目標を見つけた今の君は、とても生き生きしています！ 目標を持った人と会うのは気持ちいいものですね。

高校受験を前にした頃、自分の将来のことをいろいろと迷い、同学年の人たちの考えを聞いて回ったりしましたが、みんなが進学するからといった自主性のない考え方やお金がからむ不純な動機やに対して強い反発を示す僕の性格は、逆に相手から嫉妬や反感を買ったり、甘さのようなものを感じさせるらしく、激論になることも時々ありました。

大学受験の時も、同学年の人や大人たちと話し合ったりしましたが、大学へ行く目的が学問を究めるためとか自分を知るためとかいうものではなく、本音は就職のためとか世間体のためなどという、学問とは関係ない不純な動機の人ばかりで憎々しい思いをしていました。

でも、芸術関係の学校で、同じ目標を持った純粋な夢を追いかけている人たちの中で勉強するようになったら、それまでのイライラした気持ちが収まり、心が安定して、何も話さなくても心は通い合っている感じがいつもあって(=共感)、毎日楽しく生きることができるようになったんです。

そこで初めて、人間には、大きな夢もなく目の利益だけ考えて生きていける人と、それでは満足できない人がいると割り切ることができ、腹を立てずに生きられるようになりました。

ayu くん、君もきっと、その学校で出会った友達とはいい友達になれるでしょう。

でも今日は、せっかくの意欲に水を差すつもりじゃないけど、君の本当の幸せのために、もう少し踏み込んで考えてもらおうと思います。

調べてみたのですが、アニメの制作本数は全盛期に比べると減ってきているそうです。そんな中で、君に本当の実力と運がなければ職業としてやっていけないという保証はどこにもありません。その学校に入学した人が、みんな声優としての輝かし

い未来を約束されているわけではありません。学校は商売ですから、そりゃあ、仕事がたくさんあるように言います。声優になる夢を持つことは大いに賛成ですが、こんな夢のないことを言う理由は、そのことと君が幸せに生きることとはまったく違うことだ、ということを知っておいてもらいたいためなんです。

ayu くん、今まで僕は都内の、とあるマンションの狭い一室から、君へメールを送っていました。でも、ここから先は、僕の机とパソコンを「どっこいしょっ！」と、この部屋の外に運び出そうと思います。今から、分身主義の真髄ともいえる、とても大切なことを話さなければなりません。それは、もしかしたら誤解を受けるかもしれないことなので慎重に話す必要があるんです。

僕は40歳になる少し前に、一人でアラスカの山に登りました。やりたい夢に対して、一つ一つ自分の限界を知ること、一つ一つと夢が消去されていき、それでもどうしても捨てきれない夢を持って余していました。40歳を前にして、一人でもう一度いろいろと考えてみたかったです。

中腹で車を乗り捨てて身支度を整え、鬱蒼とした緑の中を潜り抜ける狭いトンネルのような道に導かれて歩くこと約一時間、視界が急にひらけ、ゴツゴツした石ころだらけの緩斜面が現われました。その中から一番大きくて平らな石を探して休憩を取ることにしました。

アラスカといっても季節は夏の終わりくらいで、そんなに寒い日でもなく、Tシャツ一枚で登れるくらいでした。登り始めた時はガスっていたのが嘘のように晴れ渡っていました。太陽の光に包まれて、石ころだらけの斜面と遠くの空との間あたりをぼんやりと眺めていると、しばらくしてとても奇妙な感覚に襲われたんです。

今いる場所が、日本から遠く遠く離れた、中学の時から憧れていたアラスカだという実感がまったくわからないんです。それまで、ほとんど誰ともすれ違うことはなかったし、鳥の声すら聞こえてこない静寂の中に一人ぼっちだったからかもしれません。もちろんアラスカを証明する横文字の看板などもどこにもありません。

「ここは一体どこなんだろう!？」

自分が、たった今、石ころだらけの未知の天体に着陸した初めての人類のように孤独な気さえてきました。その時、僕がいた場所は、この宇宙に漂う名もない星の名もない一点だったような気がします。僕は今、その懐かしい場所に、自分の机とパソコンを運び出そうと思います。

人は生きていくうちに、いろいろな「自分は〇〇である」を取り込みます。自分は日本人である。名前は〇〇である。学生である。男である。男とはこうあるべきである。幸福とは〇〇である。社会とは〇〇であるべきである。

そういう常識や思い込みを、全ていったん解除させることは不可能ですが、せめて、この宇宙に漂う名もない星の名もない一点に、机とパソコンを運び出した僕をイメージしてみてください。それまでの常識が通用するかどうかもわからない未知の天体に着陸して、これから手探りで始めようとしている人類をイメージしてみてください。そこから、真っ暗な宇宙に向けて君にメールを送信しようと思います。

でも、感度のいい君のパソコンは、弱々しい僕の電波をすくい取って、きっとその中にある本当の意味を理解してくれると信じています。

まず最初に断っておきたいけど、僕たちがこれから考えていくことの根底には、常に「世界の平和」という条件を用意しておく気持ちを忘れないで欲しいんです。

世にあるたくさんの自己啓発の本は、「いかにしたら自分の思うままの自分になり、幸福な生き方をつかみ取ることができるか」ということを目的にして書かれています。が、「世界の平和」なんてことはまったく忘れられています。まるで、自分の思うままの自分になれた時が本当の幸福を手にした時であり、世界が平和になることとは一切関係がないとでも言っているようです。

数え切れないほどある偉大な宗教だって、自分や自分たちが幸福に生きるということは、とてもよく考え尽くされてはいるけれど、「世界の平和」までは考えられていません。

君のことを心配して病院に連れて行ってくれたお母さんだって、君に薬を処方するお医者さんだって、君のことを治すことと「世界の平和」とを同列において考えようなんて、頭の隅にこれっぽっちだって浮かばないでしょう。

ただ僕らは以前君に書きましたね。「脳というのは、個人の持ち物でも、自分の考えでどうにかなるものでもなく、それを取り巻く環境に“動かされている”存在でしかない」って。

君の脳を治すには、君の脳を取り巻く環境を治す以外にないんです。と言うことは、君の幸福も、どんな人の幸福も、「世界の平和」を抜きにしては実現しないということなんです！なぜなら現代を生きる僕たちは、好むと好まざるとに関わらず、意識するしないに関わらず、地球的規模、いや宇宙的規模の世界観の中に組み込まれているからです。

「世界の平和」などと漠然と言っているけど、もっと具体的に言うと、世界中の人が何の不満もなく仲良く生きれる社会のことです。もっと言えば、死ぬ時も大きな安心感に包まれて死んでいける社会のことです。

そんな社会あり得ないって!? まあ、最後まで読んでみてから、その結論を言っても遅くはないんじゃないかな。

「世界の平和」などと言うと、「そんな遠くの話どうでもいいよ、それより今の生活をなんとかしてほしい」などとため息をつく人が必ずいるけど、本当は、現代を生きる僕たちにとっては、世界の平和を考えることこそ自分が幸福になるための最

短距離だし、本当の意味で自分が幸福になるにはそれしかないとも言えることをわかってくださいな。

幸福の考え方は十人十色だから、一概に「これが幸福！」と言えるものはない、などともっともらしく言う人もいるけど、それがよく考えるとそうでもないことがわかります。それは一昔前の正論だった、と思ってもいい。

現代を生きる僕たちにとって、本当の幸福とは「世界中の人との共感」以外にあり得ないんです。ここで言う共感とは、共通の関心を持った人同士のサークル活動などを通して味わう実際的な共感だけでなく、会ったこともない全ての人に対して、深い部分でつながっていると感じている普遍的な感覚としての共感のことです。その普遍的な共感、死の恐怖よりも強いものなんです。世界中の人と心の深い部分でつながっているという共感、安心感　これが分身主義なんです。

じゃあ、それ以外の幸福って考えてみよう。

「お金（富）こそ幸福」と言う人もいるし、「健康こそ幸福」と言う人もいるし、「力（権力）こそ幸福」と言う人もいるけど、そのどれも、本当の意味の幸福ではないことはすぐわかります。

- ・お金（富）に頼るものはお金に敗れる。
- ・健康に頼るものは健康に敗れる。
- ・力（権力）に頼るものは力（権力）に敗れる。

いいかい、ayuくん、どうかこの言葉の意味がわかるまで何度でも復唱（ふくしょう）してみたい。この意味はね、お金（富）も、健康も、力（権力）も限度がないからなんです。いつまで行っても決して満たされるといことがない。そして、欲に根差したそれらの幻想につかまってしまった人は、常にその幻想にまつわるあらゆる幻想にも振り回され、やがては自らの欲に滅ぼされてしまうということです。

そうだろう!?

では、どうしたら僕たちの心は満たされると思う？ それはね、自分の貧しさ、自分の病弱さ、自分の無力さを喜べる自分になることなんです。難しいことなんかじゃないだろう!？ 貧しさや病弱さや無力さと無縁でいられる人なんて、一人もいない。だから、誰だって簡単に手に入るものなんだから。

僕たちは、血のにじむような努力をしたり人を蹴落としたりすることなしに、たった今この瞬間にでもそれらを手に入れることができます。

僕たちが、この自分の真実の姿を見つめない限りは、普遍的な共感というものも生まれないんです。

でも、君もそうだと思うけど、今まで「富、健康、力」を至上（しじょう）のことと信じさせられて追い求めていた僕たちにとって、考え方を180度転換させることは難しそうにも思える。それに、「自分の貧しさ」、「自分の病弱さ」、「自分の無力さ」なんて格好悪くて喜べそうもない。

今、君はそう感じているんじゃないかな!?

それは全く違うんだよ！

僕のホームページ（『僕は健康だよ。ただちょっと』）を読んでくれた君ならわかってくれたと思うけど、**本当の富**とは自分の貧しさを知り、助け合える多くの友人を持つこと。

本当の健康とは、自分の病弱さを知りつつもそれを明るく笑い飛ばせること。**本当の強さ**とは、自分の弱さを見つめる勇気を持つこと。

だったんだ。ほとんどの大人がそのことに気づいていない。

ねえ、ayuくん！

僕は今、君に、間に合わせでない本当の幸せをつかんで欲しいんです。そして、君が本当の幸せをつかむためにも、世界が平和（＝共感でつながれた仲良しの人間関係に満ちた世界）にならなくてはいいけないんです。この意味をきっとわかってくれると信じています。

本題に入ります。

この前、素粒子<原子<分子<細胞　と書いたけど、僕たちの脳ももちろん細胞でできています。他の部分の細胞とは形も動きもかなり違い、それは神経細胞（あるいはニューロン）と呼ばれています。

この神経細胞が脳を取り巻く環境（これは後で説明します）から何らかの刺激を受けると、面白いことに、それは電気信号に変換されて、網の目に張り巡らされた神経細胞の中を次から次へと伝わっていく仕組みになっているようなんです。そのことに、理由や意味なんてないんです。ただ、そのようになっているだけなんです。

前にも書いたけど、素粒子というブロックがくっついて神経細胞というものが生まれた時、そのような新たな性質が立ち現われたということなんだよ。

僕たちの生体内には、電荷を帯びたナトリウムイオンやカリウムイオンやカルシウムイオンなどがあり、脳の神経細胞が刺激を受けると、普段は閉じている細胞膜にある小さな穴が、ほんの一瞬開きます。その一瞬の間を突いて、今言ったナトリウムイオンやカリウムイオンが、神経細胞の中を出入りする時に電気を発生します。その電気信号が、記憶との相互作用によって感情を起こさせたり、思考させたりしていたんです。そして感情や思考を発生させた電気信号が、筋肉の細胞に到達すると、カルシウムイオンが放出されて、それが筋肉の細胞を動かしたりしていたんです。僕たちの身体は電気で動いているロボットみたいなものだったわけです。

今、「記憶との相互作用によって感情を起こさせたり、思考させたりしていた」と書きました。君が、過去の記憶も現在の記憶もなくなったと想像してみてください。何かを見たり聞いたり感じ取ったりすることができるでしょうか。五感からの刺激は、確かに君の脳に伝わり電気を発生させ、神経細胞の中を次から次へと電気信号は伝わっていくはずですが、それで終わりです。記憶がなければ、その刺激は単なる電気信号のままです。「記憶」があるために、僕たちは物を「認識」し、自分を「意識」し、「意欲」を持って行動させられます。記憶とは、情報を「獲得」して、それを「固定」して、その次にそれを「再生 (= 想起)」させることです。まず、僕たちの脳にどのように記憶というものが「獲得」され「固定」されるかということから話します。

僕たちの脳を取り巻く環境には、おびただしい刺激があふれています。脳から見れば、刺激というのは「情報」とも言い換えられます。まず最初に忘れてならないのは、生まれつき持っている「遺伝情報」です。僕たちの身体は約60兆個の細胞できていると言われていますが、その一つ一つの細胞の中に「遺伝子」と呼ばれる部分があり、それが僕たちの身体を作るための遺伝情報を運んでいます。分身主義では、この遺伝情報も脳を取り巻く環境に含めます。どういうことかと言うと、科学を整理して大局的に眺める分身主義は、全ての物事をビッグバンから途切れることなくつながって起こっている現象と捉えるので、僕たちの脳も例外ではなく、脳は遺伝情報という環境の中に生まれている現象の一つと考えるからです。脳という物体が現象だなんて変な言い方ですけど、この考え方は間違えではないんです。僕たちは、お父さんとお母さんの遺伝情報だけを受け継いでいるわけではなく、僕たちの祖先の祖先のそのまた祖先の、生命誕生の遺伝子から、その遺伝情報をずっと受け継いでいるんです。僕たちの脳は、そしてこの身体は、遺伝情報の海という環境の中に生まれては消えている現象と言えます。

ayu さんの脳は、遺伝情報という環境の中に生まれている現象ですから、遺伝情報は、君の脳を作ってしまったらサヨナラをして消えてしまうわけではなく、これからの君の脳を作っていく環境としてもずっと作用し続けます。「遺伝情報」の他に、僕たちの脳を取り巻く環境は、「五感から入ってくる外部からの情報」があげられます。五感(視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚)から入ってくる情報とは、見たり、聞いたり、味わったり、嗅いだり、触れたりするものことです。

これにはちょっと説明が必要です。例えば右手で左手のどこかをつねってみてください。今つねった所が痛いと感じているはずですが、本当は痛いと感じているのは僕たちの脳なのです。その証拠に、脳の中の、左手に対応している部分が壊れると、つねっても痛みを感じないし、焼いても熱さを感じません。逆に、以前お話しした「幻肢痛」などは、腕がなくてもそれに対応する部分が脳に残っているので痛みを感じてしまうわけです。同じように、五感から入ってくる情報は全て、脳の中にその場所に対応している部分があって、その部分と記憶との相互作用によって感じている(*5)と言えます。これは大事なことなので、ちょっと覚えておいてください。

(*5) 感じているのは、目や鼻や耳や舌や皮膚ではなくて、脳の中の、その感覚に対応している部分と、記憶との相互作用である。

三つ目は「身体内部からの情報」、例えば、お腹が痛いとか、肩が凝ったとか、あるいは、おしっこがしたいとか、のどが渴いたとか、ホルモンの作用によって起こったりすることなどです。情報が脳の神経細胞内を、電気信号となって次々と伝わっていく時に放出されるセロトニンやアドレナリンやアセチルコリンやグルタミン酸などの神経伝達物質と言われる化学物質も、「身体内部からの情報」に含めます。この神経伝達物質とは、僕たちの感情や運動機能に関係する化学物質で、現在、知られているだけでも100種類ほどあります。

この宇宙はビッグバンから始まり、その時の力が約140億年経った今も途絶えることなく、宇宙をものすごい勢いで膨張させていることは、以前言いました。この約140億年の間に、ビッグバンの時の力が分散され、そこにあった素粒子を原材料にしてあつちに天体を作ったり、こっちに地球を作ったり、そこに生物を作ったり、やがて人間を作ったりしてきました。その分散されて吹きまわっている力を、「ビッグバンからの風」あるいはそれを縮めて「ビッグバンの風」と形容することにします。

ここまでのことをまとめると、脳を取り巻く環境には次の三つの情報があり、情報とは全て、この**ビッグパンの風**の作り出す現象のことでした。

- 1、遺伝情報
- 2、五感から入ってくる外部からの情報
- 3、身体内部からの情報

その**ビッグパンの風**を右の図の矢印で表しています。

ちょっと気持ち悪い絵になってしまったのは勘弁してください。人物を取り囲んでいる白い楕円形は、後で説明に出てきますが、自我（これが自分という存在であると自分で思い込んでいるところのもの）で、自分に関係ない情報は取り込むことができず跳ね返している状態も表しています。

まずは1の**遺伝情報**によってある程度の枠組みが作られている脳内に、2と3の情報が入力されると、細かい網の目模様を作っている神経細胞同士のつなぎ目に変化して、伝達の固定的な回路が作られます。その回路は、繰り返し入力によって効率化が強化されることも、実験によってわかってきました。

この現象が「記憶」の「獲得」と「固定」と呼ばれる段階です。

人はそれぞれ生きてきた環境の違いによって、つまりその人の脳を取り囲む環境（遺伝もその人の脳を取り囲む環境に含めましたね）の違いによって、違う「記憶」を持っています。

14年間かけて、その置かれた環境の中で育まれ、形成されてきた記憶の回路を持った脳が、現在のayuくんの脳の状態なわけですが、当然、情報は今現在も常に入ってきますから、「君の脳」も一定のものではなく、常に変化します。でも、このようにして作られている「記憶」が、その後に入力される情報（刺激）を認識するために重要な働きをしています。つまり、その人なりの情報処理をするように働くわけです。

その人の脳を作っている「記憶」がフィルターや増幅器の役目を果たして、その後の情報（刺激）を認識したり、それによって何かを思考したりすることになります。これは、記憶の「獲得」、「固定」の次の段階の「再生（＝想起）」という段階を経ることになりますが、この「再生」が起こるためには、自分の脳を見る**第二の脳**が作られるのを待たなければなりません。

さっき、「感じているのは、目や鼻や耳や舌や皮膚ではなくて、脳の中の、その感覚に対応している部分と、記憶との相互作用である」と言いましたが、そのことと**第二の脳**の出現と関係があります。

例えば、君の五感の全てを満足させるような、とても美味しいケーキを食べたとします。その時、脳の中の五感に対応するそれぞれの部分が、そのケーキから入力された情報に反応し、その**興奮の痕跡**が記憶の回路としてネットワークを形成しています。

脳の神経細胞は、一つの神経細胞が他の記憶にも使い回しされているので、たまたま他の刺激でこの回路の一部の神経細胞が刺激された時に、ケーキが再生（想起）されたりすることがあります。

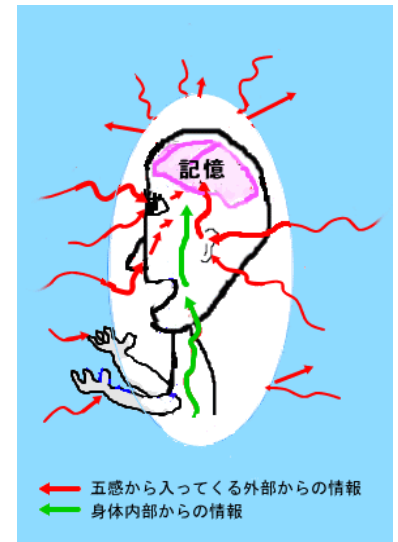
それは、女の人とすれ違った時に香水の匂いを嗅いで、漠然とケーキを食べたくなったり、という形で現われる場合もあります。実際にケーキを目にしなくても、その刺激を受けた時の興奮の痕跡が脳に記憶されているためです。これが記憶の「再生」です。

このように、記憶のおかげで、同じケーキを目の前にしたり食べたりしなくても、僕たちの脳の中にはその時と同じ興奮が生まれることになります。元々、ケーキを感じていたのは目でも舌でも鼻でもなく、脳だったわけですから当然のことです。この場合、外部のケーキを見たり触れたり味わったりしているのではなくて、それをしたのと同じ状態を自分の脳内で作り出していて、僕たちはそのケーキを見ていることになります。これはどうしたことか考えてみてください！ まさに、自分の脳の中を見たり触れたり味わったりする脳が出現したかのようなではないですか!? この自分の脳を見る（感じる）脳を、分身主義では**第二の脳**と呼んでいます。

でも、本当の意味の**第二の脳**が完成するのは、「言葉」が生まれてからです。

僕のような記憶力のない人間で、いくら語彙が少なくとも、今このメールで書いているような膨大な量の言葉を記憶させられています。

言葉は最初は、五感のうちの聴覚情報（空気の振動が作り出す音の刺激）だったのですが、それが他の感覚 視覚、触覚、味覚、嗅覚、全てに対して「言葉」を置き換えられるようになったことで、記憶の量は飛躍的に増大し、しかも記憶は再生



→ 五感から入ってくる外部からの情報
→ 身体内部からの情報

脳を取り巻く環境には、おびたしい情報があふれている。情報とは全て、ビッグパンの風が作り出す現象のことである。

されやすくなりました。

例えば「ケーキ」という言葉は、音という聴覚だけでなく、ケーキを見たり触れたり食べたりした時に興奮した記憶の回路（ネットワーク）をひくくめて、それらを代表して、ケーキという音（あるいは記号）に置き換えられているわけです。それで、ケーキという言葉は、脳の中に本物のケーキを食べた時と同じ興奮を生じさせることとなります。外部のケーキを見たり触れたり味わったりしているのではなくて、それをしたのと同じ状態を自分の脳内で作り出している、僕たちはそのケーキを見て（＝感じて）いることとなります。

「言葉」によって、**第二の脳**が完成の域にまで達した瞬間です。

もし言葉がなければこんなことは不可能ですね。

言葉という聴覚（あるいは視覚）情報が、記憶をよりリアルに再生する最も有力な情報であるということがわかります。

第二の脳（自分の脳の中を見る脳）は、**言葉の記憶**によって、より豊かな連想、意識、想像、感情などを作り上げました。自分という意識（自我）を持ったり、他人の感情を読み取ったり、思考を組み立てたり、などの現象は、言葉が記憶されていない脳には浮かび上がってこない現象かもしれないと考えられます。

言葉の記憶によって、このように、意志（意思）や思考という、現象が生まれました。これは、人間の脳の中に、あたかも小さな扇風機ができたような状態です。

ちょっと複雑になってきたので、ここから先は、もう一度先程のグロテスクな図で説明します。

人間の脳の中に、あたかも小さな扇風機ができたような状態を右図に表しました。モーターはなくて、外から吹いてくる風の力で回る扇風機です。

外から吹いてくる風で回っている状態というのは、連想や、想像や、そして思考などを浮かび上がらせている状態のことです。外から吹いてくる風で回る扇風機ですが、その人の脳を作っている「**記憶**」がフィルターや増幅器の役目を果たしているので、人それぞれの回転をします。

人それぞれの回転の仕方です。扇風機は、今度はその風が外の風にも影響を与えることとなります。

この、風を起こしている状態というのは、僕たちが発言や行動などを行っている状態のことです。愛を語ったり、他人を批判したりという発言をしている状態や、料理を作ったり、ロケットを作ったり、木を伐採して家を建てたり、戦争をしたりという行動をしている状態です。

これらは、自分の内部から他の何ものの助けも借りずに自立的に沸き上がってくる「（自由）意志」のようなものが起こしている行動だと、僕たちはずっと信じてきました。でも、「意志」とは、ビッグバンの力が今も連綿と引き渡されながら、それが分散されてあちこちでいるいろいろな現象を引き起こしながら、あらゆる方向から僕たちの脳に情報として届き、その刺激によって受動的に浮かび上がらせられていた現象（*6）だったんです。

これが分身主義の真髄とも言える考え方です。

この絵の脳を取り巻く**ビッグバンの風**を全て止めてしまうと、脳の中の扇風機は動きを止めてしまいます。自発的なモーターがあったわけではなくて、あくまでもその原動力は外の風だったんですから。分身主義は、人間には意志がないと言っているわけではありません。今まで言われていた意味での（自立的な）意志はない、と言っているだけです。

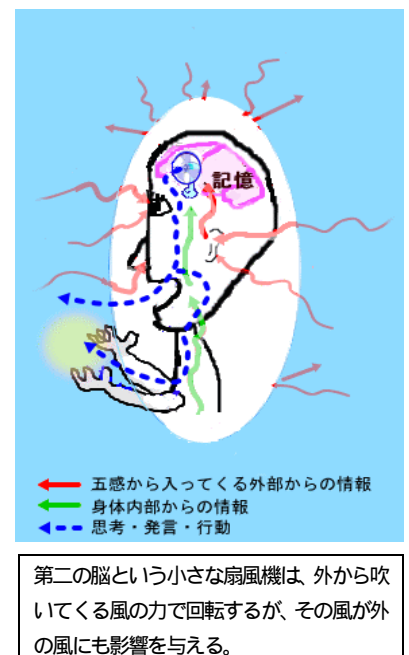
この信じ難い事実を疑う人が、君に一つ実験を企てたとします。例えば、君はトマトジュースが大嫌いだとします。彼はそれを知っていて、君の目の前にトマトジュースの入ったコップと、オレンジジュースの入ったコップを置き、「さあ、ayuくん、君の自由な意志で好きな方を選択して飲んでください」と指示します。そこで君はオレンジジュースを飲みます。それを見て彼は次のように結論づけます。

「やっぱり我々人類は、自分の（自由な）意志で行動をしている！」

彼の実験には元々間違いがあります。彼は、「人間には自由意志がある」という結論を実験から導き出したのなら、君の脳を取り巻く環境に、何らかの情報を与えてしまっただけではいけなかったんです。トマトジュースとオレンジジュースという視覚情報、指示する時の言葉という聴覚情報、トマトジュースが嫌いという身体内部の情報、まさに君の脳を取り巻く環境は、君の脳の中にオレンジジュースを飲むという意志を浮かび上がらせるように働き、それをさせられる（行動を取らされる）ための情報があふれています。彼の実験はむしろ、君の意志が、これらのたくさんの情報が刺激となって受動的に浮かび上がってきたものである、ということを図らずも裏付けてしまいました。

分身主義の「**意志とは情報（刺激）によって生まれる受動的なもの**」を証明するものとなってしまったのです。

しかも、彼の間違いはそれだけでなく、自分の設定した実験すらも「ビッグバンの風」に受動的にやらされていた行動だと



（*6）意志とは情報（刺激）によって生まれる受動的なもの。ビッグバンの風に押されて浮かび上がってくるもの。

は気づいていないことです。つまり、彼は、僕の「意志とは情報（刺激）によって生まれる受動的なもの」という言葉（＝情報、刺激）を聞いたことで、彼の脳内に受動的に生まれた反感？によって、実験をさせられたのです。その証拠に、僕の言葉を聞かなければ一生やらされることのなかった実験です。

それにしても、どうして人間は、自分には意志があると信じたがるのでしょうか？ それを否定されると怒り出したりするんでしょうか？

僕たちの現在の脳は、「自分には確固とした意志がある」という情報を入力すると、ホッと安心して喜ぶ反応をし、その反対の「意志なんてない」などという情報を入力すると怒り出したりガッカリしたりする反応をしてしまう環境に置かれているからです。この環境を分身主義では**個人主義的な環境**と呼んでいます。でも、これからの時代は、そのような環境に置かれた脳では乗り越えていけなくなります。「自分には意志があると信じる気持ち」を生む**環境**が争いや不幸や犯罪を招いていたからです。これからの時代を生き抜く脳は、「人間には意志がない」と入力した時、それを素直に受け入れ、共感というもっと安心してもっと喜ぶ感情が浮かび上がるような環境に置かれなければいけません。

そこで、もう一度書きます。

人間は今まで、100パーセントの人が、自分の（自由な）意志で決定して行動をしていたと信じ込んでいましたが、そうではなくて、「意志」とは情報（刺激）によって浮かび上がってくる**受動的なもの**だったんです。そして、その「意志」によって取られる行動はもちろん、情報という刺激に取られていた行動だったんです。

これはちょっとした考え方の転換に過ぎませんが、この違いが世界を平和にするか戦争を起こすか、君が幸福になるか不満を抱えて生きるか、ほどの違いがあるんです。これこそ、人類の心を一に結び付けてくれて、僕たちに永遠の命を与えてくれる分身主義の**真髄**です。

声優を目指すことに決めた ayu くんだけど、それは君が決断したように思っているかもしれないけど、実は、君の脳を取り囲む環境（＝**ビッグバンの風**）が、君の脳内に浮かび上がらせていた現象だったんです。君の脳が決断したように**錯覚**させられている現象なんです。

ayu くん、僕たち人間は、現在、電気信号で歩いたり走ったり考えたり学習したりするロボットを作れるようになりました。彼らは、人間の意図した動きだけをするように作られた有能なロボットたちです。でも、自然界はもっとも前から、ロボットを作っていたんです。

生物という名の、電気信号で動くロボットです。それは、自然界の意図した動きだけを　つまり自然界の**法則**に則った動きだけを　する有能な、電気信号で動くロボットたちだったんです。

つまり、人間がロボットを作ったと言うより、自然界（＝**ビッグバンの風**）が僕たち人間というロボットを操って、人間にロボットを作らせていた、という言い方が正しいようです。僕たちの脳の中に生まれてくる嫉妬や羨望や憎しみや怒り、そして喜びという感情も、自然界（＝**ビッグバンの風**）が人間というロボットにやらせているものでした。争いも戦争も、自然界（＝**ビッグバンの風**）が人間というロボットにやらせているものでした。

だけど、いいですか？　ここが大事なところです。

僕たちがそのことに気づいた（気づかされた）瞬間、脳の中の扇風機の回転に変化が起こり、**ビッグバンの風**に影響を与えます。僕たちに吹いていた**ビッグバンの風**を、嫉妬や羨望や憎しみや怒りを起こさせない、そして争いも戦争も起こさせない風に変化させるんです！

世界を仲良しの人間関係で満たし、僕たちに本当の自由と幸福を感じさせてくれる風に変化させるんです！

この「僕たちがそのことに気づいた（気づかされた）瞬間」という意味こそ、「**僕たちの脳に分身主義の記憶が上書きされた瞬間**」のことなんです！

もし君の脳に分身主義が上書きされたら、君の前にしつこく意地悪をしてくる人がいても、あるいは犯罪を犯した人がいても、彼を責めたり憎んだりしなくなります。それは彼の罪ではなく、彼の脳を取り巻く環境（＝**ビッグバンの風**）が彼にやらせたことを、君の脳は**感覚的に察知**するからです。彼の脳を取り巻く環境には、君ももちろん含まれていることを、つまり君もその人の行為の一部を**荷担**していたということを直感しています。

分身主義を上書きされて、そういう感覚を持った君の脳は、彼の行為を責めたり憎んだりするような不適切な行動を取らないようになっています。君の脳は、彼がまだ分身主義者でないことを残念に思うという反応だけをするように変化しています。

分身主義者を目指している今の僕は、高校時代に、同年代の人や大人たちを批判的な目で見ていることを、今では、不適切だったと反省しています。それは彼らが悪いのではなく、彼らの脳を取り巻く環境に彼らが取られていた行動や感覚や思考パターンだったからです。そして、彼らに苛立ちを感じていた僕も、僕の脳を取り巻く環境にそのような感情が浮かび上がらせられていただけだったんです。

それとずっと前に、君とやり取りをした家庭環境の話、思い出してください。君のメールを読んで、この年になって始めて

「僕の抱いていた幻想も、心の状態も、みんなみんなその頃の僕の家庭の状態が脳に反映されていたのではないかと気づいたという話です。

でも家庭の状態というのは、父や母の育ってきた環境や父の仕事先の環境や、住んでいる場所とかその近所の環境や、社会の環境なども決して無縁ではありません。父の仕事はその頃の日本の経済的環境や、世界における日本の力関係が作り出す環境とは無縁ではありません。

こういった全てのものが、その時の僕の奇行？となつて現われていたんです。

分身主義は全てを環境のせいにして、悪いのは自分じゃないと責任転嫁して逃げているのではありません。全くその逆で、分身主義というのは、みんなで責任を引かぶるものなんです。自分も環境の一部である以上、みんなで責任を取ろうというものです。どんな英雄も、どんな犯罪者も、その一人一人の力でなし得たわけではなく、みんながその英雄を作り、みんながその犯罪者を作っていると自覚するものですよ。

ところで、以前、孫悟空の話をしたのを覚えていますか？ もう一度、彼の話をしてします。

孫悟空が、我こそは世界で一番なりと威張り散らして乱暴狼藉を繰り返していた頃のことです。ある日お釈迦様は、彼を自分の手のひらに乗せて言います。

「悟空よ。わたしの右の手から飛び出してみなさい」

彼は、「お安い御用だ」と言って、筋斗雲（きんとん）に乗って宇宙の果てだと思われる場所までひとつ飛びします。目の前に柱が5本立っていたので、柱に「孫悟空」と自分の名前を書いて、ついでにその根元におしっこを引っ掛けて意気揚々と帰ってきます。でも、お釈迦様の指を見て、びっくり。そこには、孫悟空が書いた文字がありました。どんなに飛んでも、彼は お釈迦様の手の中からは一歩も飛び出していなかった、というお話です。

孫悟空は、その後、見違えるように謙虚になります。そして、三蔵法師という偉いお坊さんと出会い、民衆を救うために天竺までお経を取りに行く彼の旅のお伴をしたのです。

ayu くん、僕が今、孫悟空の話をしたのは、僕たち人間はまるで思い上がっていた頃の孫悟空そっくりだからです。僕たちは自然界のロボットだったと気づくことは、自然界の手の中からは一歩も出ることはできなかつたと気づくことです。瞬き一つ、指の上げ下げ一つ、考え事一つにしても、自然界（= **ビッグバン**の風）にやらされていたんですよ。

例えば僕たちは、他人を動かす方法を知っています。「トイレを汚さないください！」と張り紙するより、「いつもトイレをきれいに使ってくださいありがとうございます」と張り紙する方が効果があることを知っています。「君のこの部分が悪い点だ！」と叱るより、「君はいい面を持っているけど、この部分を直せば、それがもっと活かされるよ」と誉めた方が効果があることを知っています。

でも、その時、その人が人を動かしたと思うのは勘違いです。正確に言えば、その人が人を動かすように動かされたんです。それは例えば、その人の脳の中に、そのような教訓やそのようにしたらうまくいった記憶がインプットされていて、その時たまたま何らかの刺激に発火されて、その回路が刺激され再生され再構築されて、行動となって現われただけなんです。それら全てが**ビッグバン**の風が起こしている現象だったんです。

このにわかには信じ難い事実を、「分身主義」という言葉に集約して人類の脳が記憶した時、つまり人類の脳の中に分身主義が上書きされた時、僕たち人類の脳の中の小型の扇風機の回転が変化し、それが再び外の風の吹き方に変化を与え、それまで人間の脳に「傲慢」を作るように吹いていた**ビッグバン**の風が、「謙虚」を作るように吹く風に変化します。これが大事なところですよ。

「人間は自然界のロボットだった」と言っても、誤解しないでくださいね。人間の身体を解剖学的に分析して行った先に陥る、人間を単なるカラクリ人形のような機械として見る救いのない考え方とは、まるで違います。僕たちは、不毛な科学的な分析を突き詰めていった果てに、この考え方に行き着いたわけではないんです。

僕たちの先人たちが宗教を作り出す時の気持ちの底にあったように、僕たちの気持ちの源には「人類が幸福に生きよう」との願いがあり、そして「世界の平和を願う気持ち」があり、それを元にして科学を整理していくうちに到達した悟りなんです。

出発点がまるで違うんです。

だから、人体を機械のように考える救いのない思想ではなく、人類を救うための思想なんです。

いいかい！ ayu くん！

今、「僕たち人間は、自然界が電気信号で動かすロボットだった」という言葉を信じてテレビを見てごらん！ 例えば、テレビで実に瀾みなくしゃべっている人たちがいるけど、彼らの脳の中では何が行なわれているだろうか？ インターネットの世界には、ホームページのリンクを次々とたどる「ネットサーフィン」という言葉があるけど、彼らの脳内では、ある情報がきっかけとなって、そのネットサーフィンのようなことがものすごいスピードで行なわれているんです。

一つ一つの記憶の固定的な回路が一つ一つのホームページで、言葉はそのホームページのタイトルに当たります。言葉だけでそのホームページの内容の全てが印象的に浮かび上がってきます。そのホームページとリンクされているものは、人それぞれの記憶によって違って、その流れやすさの方向でリンクをどんどんたどっている状態が、瀾みなくしゃべっている

その姿なんです。

澁みなくしゃべる人とそうでない人の違いは、接続に光ケーブルを使っている人と電話回線を使っている人の違いのようなものです。あいにく、僕の頭の中は旧式の電話回線以下で、リンク先のホームページが開かれるまでに丸三日かかることもります。(泣)

テレビの中で怒っている人、笑っている人、泣いている人、みんな**ビッグバン**の風に動かされている。誰かを批判している人、自分だけが正しいように意見を述べている人、戦争をアジテート(煽り立てること)している人、平和をアジテートしている人、人を殺した人、みんな**ビッグバン**の風に動かされている。華やかなスター、収賄罪を責められているみじめな政治家、みんなみんな**ビッグバン**の風に動かされている。

僕のこのメールの文章も、**ビッグバン**の風が僕という媒体を通して書かせていた文章だったわけです。何らかの刺激が、流れやすい方向性に従って、僕の脳内の記憶をネットサーフィンすることで浮かび上がってくる言葉をつなげているだけです。その証拠に、僕の知らない言葉や記憶、あるいはそれらを組み合わせたもの以外は何一つ浮かび上がってきません。このような目で人間たちの行動が見れるようになったら、君の目前に感動的な世界が姿を現すための**第一ステップ**(=完全無欠の分身主義者になるための第一ステップ)は突破しました。

いいかい、ayuくん！ ちょっと考えればわかることだけど、この世を動かしているのは政治家でも神様でもない！

人生の実際は、いつの間にか**大統領**になってしまっていたり、大金持ちになってしまっていたり、大スターになってしまっていたり、犯罪者になってしまっていたり、ハリウッドで生活してたりするものなんです。大統領になろうとか、大金持ちになろうとか、大スターになろうとか、ハリウッドで暮らそうとか努力して願いが叶っているわけじゃないんです。もちろん犯罪者になろうと努力している人はいないけどね。

その人がそのように熱望して、本当に望んだものになったとしても、たまたまそのように望む**ビッグバン**の風と、やらせるように吹く**ビッグバン**の風が一致しただけの話なんだよ。

何故なら、望んだ通りの人生を歩まない人の方がずっと多いということに気づくことは、少しも難しいことはありません。

僕たちは、1億円が当たればいいなと思って買った宝くじがたまたま当たった場合だけを大げさに取り上げて、望んだから望みが叶ったと信じ込んでいるようなものなんです。たまたま当たる人は、当たればいいなと望んだ人の何億分の1くらい確率でしかないにもかかわらずです。

それに、誰かが**大統領**になったり大金持ちになったり、大スターになったり、犯罪者になったり、ハリウッドで暮らすようになったりしたのは、君も関与していたんです。誰かが1億円を手にするためには、君の落選も必要なのと同じです。

そんな偶然を生きている僕たち人間が、世の中を動かしているなんて勘違いしちゃいけないよ。**だけど、間違いなく100%の大人が勘違いしています！！**それが人間をかつての孫悟空のように尊大にして、傲慢にしていたのは言うまでもありません。それに、神様は人間の想像力が作り上げたものだけど、人間の想像力というのは、その人の脳を取り巻く環境が浮かび上がらせる現象に過ぎない。つまり、僕たちの脳を取り巻く環境が、僕たちに神様を作るように仕向けていたわけなんだ。

いいかい!? 努力というものは、好むと好まざるとに関わらず、いつの間にかさせられているものことです。

そう考えると、今まで僕たちが誰かを責めたり、誰かを蔑んだり、誰かを神格化したりしていたのは、大間違いだったとわかります。僕たち人間は、自然界が電気信号で動かすロボットだったと知ったその時、初めて僕たちの心の中から、嫉妬、羨望、恨み、怒りなどの気持ちが消失して、哀れみと同情と共感の気持ちが浮かび上がり、一つになれるんです！そして、みんなの責任をみんなで引かぶる気持ちが生まれるんです。

わかってもらえますか？

ayuくん、僕たち人間には自我(これが自分という存在であると自分で思い込んでいるところのもの)というものがありますよね。これも、**ビッグバン**の風が人間の脳に記憶という現象を作ったところから生まれている「意識」です。ある宗教ではこれを悩みをもたらし諸悪の根源であるかのように考え、厳しい修行で無くそうとします。一時的には自我を無くすことは可能かもしれないけど、完全に無くすことはどんなに厳しい修行を積もうとできません。完全に自我を無くした状態とは、植物人間のような状態のことです。

でも、分身主義的パラドックス(逆説)で、自我を無くすことができます。

それは、自我の滅却ではなく自我の拡大です。

自我(=自分という意識)の境界線が強いと、自己愛的な様々な人格障害に陥ってしまうこともあります。自我の境界線が少しかだけ拡大すると、「自分たちの側」という境界線を引けるようになります。その境界線は、自分の家族<自分の会社<自分の州<自分の国<自分の宗教、と拡大します。ここまでの境界線では、まだ争いや戦争が起こります。普通の人はこの程度の境界線を引くことならできます。だから日常に争いが絶えません。もう少し拡大すると、「同じ地球人」という境界線を引けるようになります。ここまでの境界線なら、世界の平和と地球環境を守る意識が生まれます。

もっともっと境界線が拡大すると、「自分は宇宙に存在するあらゆるものの分身」という考え方ができるようになります。これが分身主義的自我的拡大なんです。ここに至った時、ふと気づくと、今まで言われていた意味での自我が嘘のように無くなっていったというパラドックスです。ふと気づくと、どうしても捨てることができなかつた自分への執着心や、それがもたらしたたくさんの心の問題や苦悩からも解放されていたというパラドックスです。

これを分身主義では、僕たちの心が育つと表現します。分身主義が目指しているものは、世界中の人が一人残らず宇宙にまで心が育ち、一人残らず自分と宇宙がイコールになることです。現代科学は、僕たちが今まで認識していた自我は神経系の見えていた錯覚に過ぎず、宇宙こそ自分の本当の姿だったことを教えてくれているのですが、世界中の人がその現代科学を通して自分の姿を理解したらどうなると思いますか？

それはもう僕たちが一つになることを意味します。分身主義が目指しているのはその場所です。

人間の脳の中には、生まれながらにして自分にとっての損得を判断するリトマス試験紙が組み込まれています。でも、心が宇宙にまで育った人にとっては、損得を判断するそのリトマス試験紙がそのまま、善悪を判断するリトマス試験紙に早変わりします。何故かと言えば、その人にとって損か得かの判断が、みんなにとって損か得かと同じものになるからです。そして、みんなにとって得なものは、そのまま善であると言ってもいいからです。

ayuくん！ 今、君を動かそうとしているビッグバンの風を感じてごらん！

例えば、声優を目指そうと決めた君が、それは君の中から自立的に生まれてきた意志ではなく、ビッグバンの風に押されて生まれてきた意志だと意識できた瞬間、それは君だけの職業ではなくて世界中の分身の代表として君がやる職業に変化します。

もし、それでも君が声優になれなくて浮浪者になつたとしたら（って、ちょっと極端だけど）、それはビッグバンの風がそのように吹いたからで、それはそれで喜んで受け入れたいのです。（でも、分身主義が上書きされた君の脳が送り出す風は、君に向かって孤独で淋しい浮浪者にするようなビッグバンの風を吹かせないことは確かです）

君のやることは唯一つ、今君に一時も休まずビッグバンから途絶えることなく吹いている風を、喜びを持って受け入れるだけでいいんです。

たとえ、どのような風であろうとも。

いいですか、ayuくん！ 君の幸福と、君がなりたい声優で生きるかどうかとは、全く別のことです。8年後の理想のために今を頑張る、それはもちろんいいことだけど、忘れないで欲しいのは、君の理想は8年後にあるのではなく、今この時だということです。今、この瞬間のビッグバンの風に動かされている君こそが、君の理想を生きているんです！ 今の君が自然界に適応している姿、たとえどんな姿であろうとも！ 今、この瞬間に、君は君の分身たちの代表を生きているんです！ たとえどんな姿であろうとも！

全ての人類は、今この瞬間、理想を生きています。全ての人類は、全ての人類の代表を生きています。英雄であろうとも犯罪者であろうとも、たとえどんな姿であろうとも、全ての人類の代表を生きているんです！

発明王エジソンは「天才とは、1パーセントのひらめきと99パーセントの汗（努力）である」と言いました。何もかもビッグバンの風のせいにする分身主義に対して、しかめっ面をする人がいます。「もしそれを認めてしまえば、努力をする人がいなくなる」というのがそういう人たちの言い分です。もちろん、今彼らにしかめっ面をさせ、そのように語らせたのは、今、彼らにしかめっ面をさせ語らせるビッグバンの風が吹いているだけの話です。

彼に吹き付けるビッグバンの風が、彼の脳内の第二の脳（扇風機）に、「もしそれを認めてしまえば、努力をする人がいなくなる」と語らせて（=反応させて）いるんです。つまり、まだ彼らが本当の分身主義を知らず、彼らの脳に分身主義の扇風機ができていないからです。

努力をする人は、そのような環境に置かれている（=ビッグバンの風が吹いている）からですが、分身主義はその自分を喜んで受け入れます。それが喜びであり、努力をしてもしょうがないなどとは考えません。

環境にやらされているということに気づいた僕が怠惰になつたかということ、実際は全く逆です。むしろ、風を感じることで宇宙との一体感を持って、みんなのためなら少しくらい過労で早く死んだっていいや、と思えるくらい、以前よりも勤勉になったくらいです。（それに死ぬということが終わりでないということだって、本当の意味でわかっています）

自分のために生きることと、みんなのために生きることが、同じ意味を持つことが分身主義です。

それに、努力をしてもしょうがない、などと言って何もしないでおくことなんて絶対に無理です。だって、ビッグバンの風は容赦なく一瞬たりとも休まずに吹き付けているからです。それと、努力をしない人や自己中心的な人もビッグバンの風のせいなので、彼らを否定したり、蔑むようなことをしないのが分身主義です。彼らにも分身主義に気づいてもらって、彼を取り巻く環境（=ビッグバンの風）を変化させてあげたい、と考える（反応する）のが分身主義者を目指す人のやることです。彼らの脳に分身主義が上書きされるだけで、彼らの脳の中にある扇風機の風を変化させることができ、それがビッグバンの風を変化させることを分身主義者を目指す人たちは直感しているからです。それが取りも直さず、自分のためだという

ことを直感しているからです。

僕は、以前、君に謎の言葉を残していました。

「分身主義は人類の可能性の上に立つものではなく、人類は自然界の前においては無力だったという**あきらめ**を知ったところから立ち上がったものです」

この意味を理解していただけましたか!?

この「あきらめ」は、絶望とは全く違います。「あきらめ」を知った時、僕たち人類はどこまでも謙虚になれます。謙虚というのは、自然界に逆らわず、自然界に身体を委ねるということです。僕たちは水の上を泳ぐことができるけど、あるいは船で水の上を進むことができるけど、それは水に抗っているんじゃないんです。水という僕たちの分身たちの性質をよく知って、彼らと仲良く手をつなぐからできるんです。

謙虚とはつながることです！

謙虚とは、この自然界の中でもっとも生きやすい状態です！

僕たちは今まで、水の中で溺れまいと無駄に手足をバタつかせるような生き方をさせられていました。自分の意志などというものを信じさせられて、無駄な抵抗をさせられていたんです。つまり、そのような錯覚をさせる**ビッグパンの風**が吹いていたわけです。それが、心にストレスをためたり、日常の争いや、戦争を起こしたりしていたんです。でも、この宇宙のあらゆるものをつなげた僕たちには、無縁のことです。

ayu くん、君は「あらゆるものをつなげた」と言われるとどのような気持ちになりますか？ 身体の底から喜びが湧き上がってきますか？

個人主義的な感覚に慣らされている人たちの中には、そう言われると、自分がみんなと紐で縛られてしまうように感じて、自由を拘束されてしまったような堅苦しさを感じて馴染めない人がいるかもしれません。分身主義を、全てを一つにしてしまう危険な思想だと感じる人もいます。

でもこう考えたらどうでしょう？

僕たち一人一人が紐のついた風船だと考えてください。赤い風船、黄色い風船、青い風船、大きい風船、小さい風船 いろいろです。その紐の末端は、一つにしっかり結ばれてはいるけれど、風船は風に揺られて右を向いたり左を向いたりとも自由です。それでも決して淋しくも孤独でもありません。分身主義は全ての人の心の深い部分の土台 (= 潜在意識) となつて、深い部分で守ってくれているものだからです。

精神分析学者は、心の病の原因は、「死への恐怖」だとか「性の抑圧」だとか「甘えの拒絶」だとか「親に見捨てられた感覚」だとか「親への憎しみ」だとか「自己への過小評価」だとか「強烈な自己への愛」などと言いますが、分身主義はそれらをキレイに押しつけてくれます。

仏教用語では、人として免れない四つの苦しみを生老病死と言います。すなわち生まれること、年をとること、病気をすること、死ぬことです。でも、分身主義はそれさえも喜びを持ってまご受け入れてしまいます。それだけでなく、「犯罪」や「争い」もなくし、「マナー」や「思いやりの気持ち」も向上させます。

もし、ayu くんが、人間関係において困難な状況に直面した場合、今までのように自分はこう考えると主張したり、他人を責めたりする思考パターンを取る前に、その人(その自分の分身)に、そのような考え方をさせたり、そのような行動を取らせる**ビッグパンの風**に興味や関心が移っていたら、君の目前に感動的な世界が姿を現すための**第二ステップ**(=完全無欠の分身主義者になるための第二ステップ)もクリアーです。

僕たちは今やっと、分身主義の入り口に立ったばかりです。平和への、そして幸福への入り口に立ったばかりです。

ayu くん、もし君が分身主義に興味を持ってくれたら、この先は『人類の育てた果実』や『分身主義宣言!』を読んで、もっと分身主義を知ってください。(もう、読んでくれたかもしれないけど、もう一度ね)

そして僕が、自分自身も完璧な分身主義者になることを目指して発行を続けているメールマガジン『世界を平和にする「自己愛的生活」』を購読してみてください。 <http://www.bunshinism.net/body11.htm>

今日は、科学的知識に関しては、かなり端折った乱暴な書き方をしてきたので、他の科学の読み物もたくさん読んで、自分でいろいろと確かめてみてください。でも、注意しなければいけないことは、科学者は誰もが自分の実験に、ある種の「思い入れ」を持って挑みます。それが、実験の結果を捻じ曲げたり、たった数回の実験で結論づけてしまったりしがちです。そうすると、それは僕たちが唯一信頼を置こうとしている「科学が証明しているもの」とは言えないものです。

そのような実験結果に惑わされてしまつては、僕たち人類は科学によってさえも一つになることはできないので、注意しなければいけませんよ！ 焦点を変えることで見えてくる感動的な世界は、今はまだ僕たちの空想の世界に過ぎません。それは人類が一つになることで初めて、現実のものとなる世界なんです。

ああ、長いこと座り続けてお尻が痛くなったし、ちょっとお腹もすいてきたので、そろそろ自分のマンションの一室に

戻ります。たとえ今までの日常に戻っても、今の僕は自分の目の焦点を変化させることができます。僕の目は自由に焦点を変化させて、そこに表出するキラキラと輝く世界をいつでも垣間見ることができるようになっていました。不安からも恐れからも解放された、人類が一つになった新しい日常です。ayuくんも早く、その日常に焦点を合わせられる目を持ってくださいね！ それには記憶の上書きです。分身主義という記憶を上書きさせることです。

ずいぶんといろいろしゃべってきましたが、一方で僕は、「実はしゃべらされていただけだ」ということを知っています。でも、言葉というものは、「人間には自立的な意志がある」という前提で作られています。これを分身主義では「言葉の呪い」と呼ぶことにします。

言葉を使ってしゃべればしゃべるほど、「意志とは情報(刺激)によってその人の脳の中に浮かび上がってくる受動的なもの」という言葉が嘘っぽくなってしまふ。そのように言葉には呪いが込められています。

書かされていることに気づいている僕は、本当は全てを受身形「僕は(ビッグバンの風に) と書かされた」とか、使役形「(ビッグバンの風は)僕に と書かせた」で書いていかなければならないわけですが、そんな文章読めたものではありません。

つまり、僕は既製の言葉や文法では表現できないことを表現しようとしたんです(いや、表現しようとしていただけでしたね)。その辺の僕の表現上の苦しみ(いや、苦しませ、です)も考慮に入れて、これまでのメールをもう一度読んでみて(いや、読まされてみて)くださいね。

実際のところ、僕は自分の自立的な意志で、君へのメールを書き始めそして書き終えようとしているわけではありません。君のたった三行のメールに刺激され、その後のメールに導かれるままのことを書き綴らされただけですよね。この文章を書いたのはayuくん、君でもあるし、僕の脳を取り巻く環境の全てでもあり、全ての人の脳でもあるんです。

つまり僕たち人類には、今、僕たちを分身主義者にさせようとする見えないビッグバンの風が、密かに押し寄せているという言い方もできそうです。

* * * * *

さて、ayuくん、以前君にお願いした言葉を覚えていますか？

「科学が証明していないものに対しては、信じるという言葉は使わない！」

という言葉です。そして、その時僕は「これから科学が解明していることだけを、君に話していきます」と約束しました。その意味をわかっていただけましたか？

科学というのは、宗教がそうであるように、この自然界を解釈する一つの方法論に過ぎません。でも、現代を生きる僕たち万人を納得させ、僕たちを一つにできるものは科学しかありません。何故なら科学は、自然界を師と仰ぎ、間違いを自然界に修正してもらいながら、そして自然界で確実に機能するモノを作って実証してみせながら、常に万人を納得させつつ進む学問だからです。そんなことができるのは、科学をおいて他にないんです。

これからの僕たち人類が自分の本当の姿を知って、共感で一つにつながり、世界が平和になるためにも、科学だけを信じる態度が必要なんです。

でも、最後に一つだけ約束を破らせてください。

君に、まだ世界中の科学者の誰も見たことのない素粒子の色を教えてください。

それは**バラ色**です！ 恋の色なんです！

分身主義とは、この宇宙の全てのものに恋をすることなんです。つまり、君が**君自身**に恋をすることなんです。

君が、密かに思いを寄せているクラスの女の子がいるとします。その子と、たまたま道で出会い、駅までの道を一緒に歩くような奇跡が起こったら、駅までの短い時間がまるで永遠のような、そして途中で目に入ってくる全てのものが躍動し輝いているように見える経験をするのでしょ

う。その女の子に「また今度、外で会ってね！」なんて言われたら、それまでのどんな嫌なことも吹っ飛んでしまうでしょう。

僕だって長い人生の中、いくつかそのような経験をしてきました。その気持ちを、この宇宙の全てのものに持つことを分身主義と言います。もしできたら、分身主義のこの感動を、まだ見ぬ君の分身たちに伝えてあげてください。



僕たち（僕と ayu くん）は、まだ完全な分身主義者ではありません。たとえ僕たちが第二ステップまでクリアーして、自分はみんなの分身であり、みんなは自分の分身であることに気づいていても、僕たちは完全な分身主義者ではありません。

僕たちが完全な分身主義者になる時とは、世界中のまだ見ぬ僕たちの分身たちも、自分がみんなの分身であり、みんなは自分の分身であることに気づいたその時です。その時、分身みんなの心が一つにつながります。分身みんなの心が一つにつながった時とは、**全身**が完成した時です。まるでジグソーパズルが完成するように。その時目前に現れた完成された全身の姿こそ、分身主義者になった僕たちの姿です。

だから、世界中のみんなが自分の**全身**の姿を見ない限り、つまり世界中の人たちの潜在意識に分身主義が根付かない限り、僕たち（僕と ayu くん）は完全な分身主義者にはなれないんです。

僕たちが本当の分身主義者になれた時、この日常はどんなに、みんなにとって良い方向へと変化させられていることでしょう。例えば、医療や年金や福祉の考え方や、障害者とか健康者とかいう考え方や、知的所有権の考え方が変わり、社会や経済や政治のシステムに変化が起こり、常識や法律にも変化が起こり、家族や民族や国家や宗教の意識や、そしてあらゆる芸術作品や創作物に変化が起こり、他にもたくさんのもものが変化させられ、話し合う内容も変化させられ、敵が存在しなくなった僕たちには争いも兵士も武器もなくなり、世界は自然に平和にさせられています。

だって、僕たちの意志が決定していたわけではないこれら全てのことを、どんなに今までのように話し合っ、僕たちの意志で解決しようとしても無理があったんです。

そのことに気づいた時、僕たち全ての人類の心はどんな苦悩からも解放され、永遠の命と本当の自由と幸福を生きることになります。

ayu くん！ その日のことを考えると、ワクワクしませんか？ 僕たちはまさに、今この**変革**の時代の**当事者**なんです。その重大な責任を一身に引き受けなければ、僕たちが一つになって、世界が平和になって、僕たちの心が何ものからも自由になって、本当の幸福の光を全身に浴びる日は永遠にやってきません。

だから、この長ったらしい文章を僕という**媒体**に書かせ、そして最後まで君に読ませるようにと吹いていたビッグバンの風を、恐がらずに、君の身体のまるごとで感じてください。

さあ 両手を広げて!!

（『バラ色の素粒子』おわり）

あとがき（今はまだ矛盾の中で）

僕に、全てがビッグバンの風が起こしている現象だと書かせてきました。

この文章にはちょっと違和感があるはずですが。主語が抜けた文章だからです。主語は「ビッグバンの風（は）」です。

本当の分身主義の言葉で文章を書くとしたら、その全ての文の主語は、この「ビッグバンの風」です。もし、分身主義があまねく行き渡ったならば、世界中でこのような主語なしの文法が使われるようになるかもしれません。煩雑さを避けるため、「ビッグバンの風」という主語は、敢えて明示しないというような文法が作られると予想されるからです。でも、現行の文法を用いた文章は、全て、「僕は」「私は」「彼は」という主語で成り立っています。つまり、言葉は「人間には自発的な意志がある」という合意の元に作られているのです。その合意の元で作られている「言葉」というものを使って、「人間には自発的な意志はない」という分身主義を表現しようとしても無理があります。これを分身主義は「**言葉の呪い**」と呼ぶことにします。

そのことで、矛盾した書き方をしてしまった点が多々あります。そう、今も僕は自分を主語にして書いてしまったようです。本当は書き方をさせられてしまった、でしたね。この矛盾を指摘されたら、僕には返す言葉がありません。完全無欠の分身主義者を目指す僕には、言葉の呪いは最大の壁です。僕はいつか、呪いから解放された本当の分身主義の言葉で分身主義のお話を書かされるような予感はしています。今はまだ現行の文法で書くしかない僕ですから、矛盾は多々ありますが、だからと言って分身主義が間違っているというわけではありません。僕の脳に記憶という性質が備わったのも、僕が何かを思考したり、言葉を組み立てたり、しゃべったりするのも、僕が行為するあらゆるものも、ビッグバンの力があちこちに分散され、今も連綿と受け渡され、その力がニョキニョキと、僕に現われている「現象」なんです。

今も連綿と受け渡されながら吹きまくっている「**ビッグバン(から)の風**」が、僕にこの作品を何ヵ月もかけて作らせ続け、今終わろうとしています。結果から見れば、僕には、この作品を書き上げさせられる以外の選択肢はなかったようです。矛盾だらけの書き方をしてしまったせいか、もし、ここまで読んでくださっても、あなたがまだ分身主義を半信半疑なら、一つだけ質問させてください。

今までに、他の何ものにも影響されず、突然湧きだしたあなたの自発的な意志で、まったくのあなたの創意で、まったくのあなたの発案で、何か一つでもやったことがありますか？

僕がこの世に生まれたことも、日本語というものを使いこなして文章というものを書くことも、書いている途中で時々コーヒーというものが飲みたくなったり、おしっこというものをしたくなることも、そして平和というものを願わされていることも、世界を平和にするためにパソコンというものを使ってインターネットというもので配布ということをしよと思ったことも、その全ては、今まで言われていた意味での「僕の意志」でやっているわけではありません。そのどれを取ってみても、まったくの僕の創意だったり、まったくの僕の発案であったりするものは一つとしてありません。

もしあなたが、他の何ものにも影響されず、突然湧きだしたあなたの自発的な意志で、まったくのあなたの創意で、まったくのあなたの発案で、今までにやったことを何か一つでも思い出すことができたなら、あなたは分身主義者にならなくて済みます。

あなたは今まで通り、世界に争いと戦争を起こし続けられます。あなたは今まで通り、間に合わせの幸福を継ぎ足し継ぎ足しながら、死ぬその時まで、いいものだけを見るようにして生き続けられるかもしれません。でも、もしあなたがいくら考えても、他の何ものにも影響されず、突然湧きだしたあなたの自発的な意志で、まったくのあなたの創意で、まったくのあなたの発案で、今までに何か一つでもやった記憶がないとしたら、あなたがそのことに気づいてしまったとしたら、もう、あなたは分身主義者になるしかありません。

あなたは世界を平和にするしかありません。
あなたは幸福になるしかありません。

争いも不幸も、それはまったくのあなたの自発的な意志で、まったくのあなたの創意で、まったくのあなたの発案で起こしているものではなく、「**あなたが自発的な意志と創意と発案で何かを成し遂げていると信じる気持ち**」が争いや不幸を招

いていただけだったからです。もっと言えば、あなたにそのような気持ちを起こさせる環境に、あなたの脳が置かれているからです。

だから、世界を平和にすることもあなたが幸福になることも、分身主義を記憶に上書きさせられるだけでいいんです。と言うより、平和も幸福も、それでしかないんです。

でも、最初に言ったように、分身主義は現在使われている言葉では説明できないものなので、言葉で理解しようと思わないでください。

決して言葉で上書きしようと思わないでください。

「人間には自発的な意志がある」という合意の元で生まれた「言葉」を用いて生きている僕たちですが、言葉をしゃべる時、言葉を書く時、あるいは思考や行動をする時、そのどこかに、「ビッグバンの風(が)」という主語を乗つけた視点^{あつ}を併せ持ってください。まるで3Dのマジカルアイを見る時のように、その二つの焦点に合わせられる目を持って(持たされて)生きていきましょう。僕たちが完全な「全身」の姿を手に入れるその時まで。

最後に、ちょっと確認します。

次の言葉たちは、しっかりとあなたの記憶^{きこ}に上書きさせられていますか？ もし、あなたの脳内^{けんさく}を検索しても見つからなかったら、カッコ中のページ番号を参照にして読み返してみてください。そして、これらの言葉が言葉としてでなくあなたの潜在意識に染み付いた時、初めてあなたの脳に分身主義は上書きされたこととなります。

・分身主義は人類の可能性の上に立つものではなく、人類は自然界の前においては無力だったという「あきらめ」を知ったところから立ち上がったものです。(4、5、30)

・僕たちがこうして出会ったことだって、本当は偶然なんかじゃない。(5、18)

・自然界の風を感じれるようになった君の身体は、君の脳の善悪を判定するリトマス試験紙を経由して、君にみんなのためになる良い行いだけをさせます。(5)

・全ての創作物は、一人の人の独創や発明ではなく、みんなの総力の結集で生まれている。分身主義が行き渡れば、著作権を含む知的所有権の考え方はいずれ変化させられていくでしょう。(5)

・精神(=脳)は、個人の持ち物でもないし、個人の意識でどうにかなるものでもない。(6)

・脳というのは、個人の持ち物でも、自分の考えでどうにでもなるものでもなく、それを取り巻く環境に「働かされている」存在でしかない。(8、21)

・この宇宙に、適応しない状態で存在しているものは何一つない。(9)

・君が激しく憎んでいる人がいるとする。でも、記憶の上書きをすれば、その人を好きになることだってできる。(9)

・科学が解明できるまでに至っていないものは、「信じる！」とは絶対に言わないで、真偽の判定を保留してください。(11)

・科学だけが僕たち人類の心をつにつにしてくれる可能性を秘めている。(11)

・全ての子どもは子どもとしての理想を、今、生きている。(14)

・(義務教育は)正しい科学的知識を教えることの重要性に気づいて、その教育に力を注いで欲しい。(16)

・僕たち人類は家族よりも強い絆で結ばれていた。人類だけではなく、星も草木も、動物も虫も、生物も無生物もみんなみんな素粒子でできている分身同士です。(16)

・僕たちが世界を平和にするには、愛が大切だとよく言われる。でも、それは、本当は世界を平和にするどころか、世界に争いを作る張本人だった。(16)

・僕たち人類が世界を平和にするためには、家族の意識を乗り越えなければならない。(16)

・科学のもたらした最も大きな功績は、僕たちに「全ての物事には原因がある」ということを知らしめたこと。(17)

・結果から見ると、全ての物事はそれしかない確率で起こっていた。(18)

・僕たちは「霊的な意味で永遠ではなく、物質(肉体)的な意味で永遠」だった。(19)

・霊的な意味ではなく物質(肉体)的な意味において、確かに輪廻転生を繰り返しています。(19)

・この宇宙は、ビッグバンの瞬間に存在していた素粒子が、自然界の法則というシナリオに基づいて演じさせられている劇場。(19)

・僕たちの身体は、天体や花や草や、他の動物たちがそうであるように素粒子のリサイクル品、つまり仮の姿(=現象)だった。(19)

・どんな人の幸福も、「世界の平和」を抜きにしては実現しない。なぜなら現代を生きる僕たちは、好むと好まざるに関わらず、意識する

- しないに関わらず、地球的規模、いや宇宙的規模の世界観の中に組み込まれているからです。(21)
- ・会ったこともない人に対しても、深い部分でつながっていると感じている普遍的な感覚としての共感 は、死の恐怖よりも強いもの。(22)
 - ・心が満たされるためには、自分の貧しさを、自分の病弱さを、自分の無力さを喜べる自分になること。(22)
 - ・本当の富とは自分の貧しさを知り、助け合える多くの友人を持つこと。
本当の健康とは、自分の病弱さを知りつつもそれを明るく笑い飛ばせること。
本当の強さとは、自分の弱さを見つめる勇気を持つこと。(22)
 - ・僕たちの身体は電気で動いているロボットみたいなものだった。(23)
 - ・僕たちの脳は、そしてこの身体は、遺伝情報の海という環境の中に生まれては消えている現象です。(23)
 - ・感じているのは、目や鼻や耳や舌や皮膚ではなくて、脳の中の、その感覚に対応している部分と、記憶との相互作用である。(23、24)
 - ・自分という意識(自我)を持ったり、他人の感情を読み取ったり、思考を組み立てたり、などの現象は、言葉が記憶されていない脳には浮かび上がってこない現象かもしれない。(25)
 - ・言葉の記憶によって、意志(意思)や思考という、現象が生まれた これは、人間の脳の中に、あたかも小さな扇風機ができたような状態です。(25)
 - ・人それぞれの回転の仕方です。扇風機は、今度はその風が外の風にも影響を与えることになります。(25)
 - ・意志とは情報(刺激)によって生まれる受動的なもの。ビッグバンの風に押されて浮かび上がってくるもの。(25)
 - ・これからの時代を生き抜く脳は、「人間には意志がない」と入力した時、それを素直に受け入れ、共感というもっと安心してもっと喜ぶ感情が浮かび上がるような環境に置かれなければいけません。(26)
 - ・自然界はもっとも前から、ロボットを作っていた。生物という名の、電気信号で動くロボットです。(26)
 - ・僕たちの脳に分身主義が上書きされた瞬間、脳の中の扇風機の回転に変化が起こり、ビッグバンの風に影響を与えます。(26)
 - ・分身主義は全てを環境のせいにして、悪いのは自分じゃないと責任転嫁して逃げているのではなく、みんなで責任を引かざるものです。(27)
 - ・人類の脳の中に分身主義が上書きされた時、それまで人間の脳に「傲慢」を作るように吹いていたビッグバンの風が、「謙虚」を作るように吹く風に変化する。(27)
 - ・(分身主義)人間は自然界のロボットだったと言っても、人間を単なるカラクリ人形のような機械として見る救いのない考え方をするものではない。(27)
 - ・ちょっと考えればわかることだけど、この世を動かしているのは政治家でも神様でもない!(28)
 - ・人生の実際は、いつの間にか大統領になってしまっていたり、大金持ちになってしまっていたり、大スターになってしまっていたり、犯罪者になってしまっていたり、ハリウッドで生活してたりするものです。(28)
 - ・偶然を生きている僕たちが、世の中を動かしているなんて勘違いしちゃいけない。だけど、間違いなく100%の大人が勘違いしています!! それ人間をかつての孫悟空のように尊大にして、傲慢にしていたのは言うまでもない。(28)
 - ・僕たち人間は、自然界が電気信号で動かすロボットだったと知ったその時、初めて僕たちの心の中から、嫉妬、羨望、恨み、怒りの気持ちが消失して、哀れみと同情の気持ちで一つになれる。そして、みんなの責任をみんなで引かざる気持ちが生まれる。(28)
 - ・分身主義的パラドックス(逆説)で、自我を無くすことができる。それは、自我を滅却させることではなくて自我を拡大させること。(28)
 - ・自分の家族<自分の会社<自分の州<自分の国<自分の宗教、と拡大した境界線では、まだ争いや戦争が起こる。普通の人はこの程度の境界線を引くことなら出来る。だから日常に争いが絶えません。(28)
 - ・心が宇宙にまで育った分身主義者にとっては、自分の中にあつた損得を判断するリトマス試験紙がそのまま、善悪を判断するリトマス試験紙に早変わりします。(29)
 - ・君のやることは唯一つ、今君に一時も休まずビッグバンから途絶えることなく吹いている風を、喜びを持って受け入れるだけでいいんです。たとえ、どのような風であろうとも。(29)
 - ・君の理想は8年後にあるのではなく、今この時です。今、この瞬間のビッグバンの風に動かされている君こそが、君の理想を生きている。(29)
 - ・全ての人類は、今この瞬間という理想を生きている。全ての人類は、全ての人類の代表を生きている。(29)
 - ・努力をしてもしょうがない、などと言って何もしないでおくことなんて絶対に無理。ビッグバンの風は容赦なく一瞬たりとも休まずに吹き付けているから。(29)
 - ・謙虚とはつながること。謙虚とは、この自然界の中でもっとも生きやすい状態。(30)

・分身主義は全ての人の心の深い部分の土台（潜在意識）となって、深い部分で守ってくれている。(30)

・言葉には、「人間には自立的な意志がある」という呪いが込められている。(31)

・分身みんなの心が一つにつながった時とは、全身が完成した時です。まるでジグソーパズルが完成するように。その時目前に現れた完成された全身の姿こそ、分身主義者になった僕たちの姿です。(32)

最後になりましたが、今まで通りの普通の言葉を使って、つまり呪われたままの言葉を使って、ありきたりに、「ayu」くんと、「坂泉かや」さんの紹介をさせていただきます。あなたご自身で、「ビッグバンの風(が)」という主語を乗つけた視点でもって読んでいただければ幸いです。

ayu くんは、高橋歩くんという名の実在の人物です。このお話は、本当に ayu くんのとった三行のメールに導かれて書かされたものです。

ayu くんは、僕に書いてくださったメールを、このような形で公表させていただくことを了承していただきました。もちろん、「世界が平和になるなら」という条件つきです。

もう一つ、イラストを担当してくださった「坂泉かや」さんは、なんとまだ高校生のお嬢さんです。インターネットを通して知り合った方です。彼女は、まだ荒削りではありますが、人に何かを訴えるイラストを描ける人です。世界を平和にするためにあなたのイラストが必要だとお願いすると、快く無償で引き受けてくださいました。

でも、僕も彼女も、それに ayu くんも著作権は放棄しているわけではありません。著作物に関する利益を放棄しているだけです。

それが分身主義的「知的所有権」の考え方です。

だから使用する場合は、出典を明らかにしてください。

そして、もし時間があれば僕のホームページのどれかを開いて、その場所からメールしてください。そうしたら、そうしたら

僕から感謝の言葉を送らせていただきます。d(^_-)-

ああ、やっとビッグバンの風様が、僕を言葉の呪いから解放してくださる時がきたようです。言葉の呪いって、本当に疲れますね。

長い間、お付き合いくださいまして、ありがとうございました。さようなら。

=====
Copy Right (C) 2004 by 徳永真亜基
ホームページ <http://www.bunshinism.net>
<http://www.epm-hassin.net>
<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/markey19/>
=====